
「第1回みえ県民意識調査」 研究レポート

-三重県民の幸福実感、その現状と課題-

資料編

平成24年9月

三重県戦略企画部

みえ県民意識調査活用研究会

目 次

(資料編)

資料1	第1回みえ県民意識調査 調査票(関係分 抜粋)	資料編 1
資料2	分析の手法等	資料編 8
資料3	幸福感の属性別分析の詳細(第1章関係)	資料編 12
資料4	回答者の属性構成と県全体の構成との比較	資料編 68

資料1 第1回みえ県民意識調査 調査票 (関係分 抜粋)

1. 幸福感

あなたが日ごろ感じている幸福感についておうかがいします。

問1-1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。 (○は1つだけ)

とても 不 幸												とても 幸 せ
0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点		

問1-2 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。 (○はいくつでも)

1	家計の状況 (所得・消費)	8	趣味、社会貢献などの生きがい
2	就業状況 (仕事の有無・安定)	9	家族関係
3	健康状況	10	友人関係
4	自由な時間	11	職場の人間関係
5	充実した余暇	12	地域コミュニティとの関係
6	仕事の充実度	13	政治、行政
7	精神的なゆとり		

2. 地域や社会の状況

地域や社会の状況について、あなたの実感をおうかがいします。

問2 次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	1 感じる	2 どちらかといふは感じる	3 どちらかといふは感じない	4 感じない	9 わからない
(1) 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。	1	2	3	4	9
(2) 必要な医療サービスが利用できると感じますか。	1	2	3	4	9
(3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じますか。	1	2	3	4	9
(4) 必要な福祉サービスが利用できると感じますか。	1	2	3	4	9
(5) 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。	1	2	3	4	9
(6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。	1	2	3	4	9
(7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。	1	2	3	4	9

	1 感じる	2 どちらかといえは感じる	3 どちらかといえは感じない	4 感じない	9 わからない
(8) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。	1	2	3	4	9
(9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。	1	2	3	4	9
(10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。	1	2	3	4	9
(11) 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じますか。	1	2	3	4	9
(12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。	1	2	3	4	9
(13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。	1	2	3	4	9
(14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。	1	2	3	4	9
(15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。	1	2	3	4	9
(16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。	1	2	3	4	9

3. 日ごろの暮らし

あなた自身の日ごろの暮らしについて、実感をお聞かせください。

問3 次の(1)から(12)までの12の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

(1) <u>自由な時間</u> はありますか。	1 ある	2 どちらかといえば ある	3 どちらかといえば ない	4 ない	9 どちらとも いえない
(2) <u>余暇</u> は充実していますか。	1 充実 している	2 どちらかといえば 充実している	3 どちらかといえば 充実していない	4 充実 していない	9 どちらとも いえない
(3) <u>健康だ</u> と思いますか。	1 健康だと思 う	2 どちらかといえば 健康だと思 う	3 どちらかといえば 健康だと思 わない	4 健康だと思 わない	9 どちらとも いえない
(4) <u>仕事</u> は充実していますか。	1 充実 している	2 どちらかといえば 充実している	3 どちらかといえば 充実していない	4 充実 していない	9 どちらとも いえない
(5) <u>生きがい</u> にしているものはありますか。	1 ある	2 どちらかといえば ある	3 どちらかといえば ない	4 ない	9 どちらとも いえない

(6) <u>精神的なゆとり</u> はありますか。	1 ある	2 どちらかと いえば ある	3 どちらかと いえば ない	4 ない	9 どちらとも いえない
(7) <u>ご家族との関係</u> は良好ですか。	1 良好である	2 どちらかと いえば 良好である	3 どちらかと いえば 良好でない	4 良好でない	9 どちらとも いえない
(8) いざという時に <u>相談できる友人や知人</u> はいますか。	1 いる	2 どちらかと いえば いる	3 どちらかと いえば いない	4 いない	9 どちらとも いえない
(9) <u>職場での人間関係</u> は良好ですか。	1 良好である	2 どちらかと いえば 良好である	3 どちらかと いえば 良好でない	4 良好でない	9 どちらとも いえない
(10) <u>ご近所付き合いや、 地域での活動</u> (自治会、 青年団、子供会など) はされていますか。	1 している	2 どちらかと いえば している	3 どちらかと いえば していない	4 していない	9 どちらとも いえない
(11) 日常生活を営む うえで <u>必要な収入</u> は ありますか。	1 ある	2 どちらかと いえば ある	3 どちらかと いえば ない	4 ない	9 どちらとも いえない
(12) あなたにとって、 現在お住まいの地域は <u>住みやすい</u> ですか。	1 住みやすい	2 どちらかと いえば 住みやすい	3 どちらかと いえば 住みにくい	4 住みにくい	9 どちらとも いえない

7. ご自身のことについて

お答えいただきました内容は、統計的に処理されますので、個人が特定されることはありません。安心してお答えください。

(1) あなたの性別を次の中から1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 男性
- 2 女性

(2) あなたは何歳ですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 20歳代
- 2 30歳代
- 3 40歳代
- 4 50歳代
- 5 60歳代
- 6 70歳以上

(3) あなたの主な職業は何ですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 農林水産業(家族従事者も含みます)
- 2 自営業、自由業(家族従事者も含みます)
- 3 企業、役所、団体、病院などの正規職員
- 4 パート、アルバイト、派遣社員など
- 5 専業主婦、専業主夫
- 6 学生
- 7 無職
- 8 その他()

(4) あなたはご結婚されていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 未婚
- 2 既婚
- 3 離婚・死別

(5) あなたの世帯構成はどれにあたりますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 単身世帯 (ひとり暮らし) |
| 2 | 一世代世帯 (夫婦のみなど) |
| 3 | 二世帯世帯 (親と子など) |
| 4 | 三世帯世帯 (親と子と孫など) |
| 5 | その他 () |

(6) あなたの世帯全体の年間収入 (税込み) は、およそどのくらいですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 100万円未満 |
| 2 | 100万円以上 ~ 300万円未満 |
| 3 | 300万円以上 ~ 500万円未満 |
| 4 | 500万円以上 ~ 1,000万円未満 |
| 5 | 1,000万円以上 |
| 6 | わからない |

(7) あなたのお住まいの市町は、どれですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

1	桑名市	7	名張市	13	尾鷲市	19	川越町	25	大紀町
2	いなべ市	8	津市	14	熊野市	20	多気町	26	南伊勢町
3	四日市市	9	松阪市	15	木曾岬町	21	明和町	27	紀北町
4	鈴鹿市	10	伊勢市	16	東員町	22	大台町	28	御浜町
5	亀山市	11	鳥羽市	17	菰野町	23	玉城町	29	紀宝町
6	伊賀市	12	志摩市	18	朝日町	24	度会町		

資料2 分析の手法等

1 統計的手法による検証（第1章、第2章関係）

みえ県民意識調査は、一部の標本を抽出し、その結果から全体の値を推定する「標本調査」です。

この調査では5,710の回答数（サンプル数）がありますが、調査結果と県全体の本当の姿との間にはどうしても誤差（＝標本誤差）が発生します。また、属性を組み合わせで細分化すると、そのカテゴリーのサンプル数はさらに少なくなることから、誤差はより一層拡大します。

このため、幸福感の平均値や暮らしの実感の比率に差があったとしても、結果として、そのことがそのまま県民全体に当てはまるとは言い切れない（統計的に有意ではない）ケースが考えられます。

そこで、幸福感の平均値や暮らしの実感の比率について比較を行うにあたり、その差に統計的な有意性があるかどうか、ここでは、同じ調査を異なる調査対象で100回行った場合、95回以上の割合で同様の差が生じると言えるかという観点から、下記の検定方法により判定を行いました（1、2）。

1 幸福感の平均値の差の検定方法

$$U = \frac{\bar{X} - \bar{Y}}{\sqrt{\frac{S_1^2}{n} + \frac{S_2^2}{m}}}$$

\bar{X} : 標本Xの平均値 \bar{Y} : 標本Yの平均値
 S_1^2 : 標本Xの分散 S_2^2 : 標本Yの分散
 n : Xのサンプル数 m : Yのサンプル数

$U > 1.64$ の時、平均値の差は統計的に有意であると言える(危険率5%)

2 暮らしの実感の比率の差の検定方法

$$U = \frac{P_1 - P_2}{\sqrt{\frac{P_1 \times (1 - P_1)}{n} + \frac{P_2 \times (1 - P_2)}{m}}}$$

P_1 : 標本Xの回答比率 P_2 : 標本Yの回答比率
 n : Xのサンプル数 m : Yのサンプル数

$U > 1.64$ の時、回答比率の差は統計的に有意であると言える(危険率5%)

2 分析の手順（第2章関係）

(1) クロス集計

問2の各設問と各属性でクロス集計を行いました。

なお、「不明」及び「わからない」回答については除いて分析を実施しています。

【例】問2 - 1（災害等の危機への備えが進んでいる）と問7 - 1（性別）の「クロス集計」

		2 - 1災害等の危機への備えが進んでいる				総計 E
		感じる A	どちらかといえば感じる B	どちらかといえば感じない C	感じない D	
7-1 男性		75	538	954	929	2496
女性		114	645	1058	794	2611
男女計		189	1183	2012	1723	5107

(2) 回答比率の算定

クロス集計結果から、属性項目毎に回答項目の比率を算定しました。

【例】問2 - 1（災害等の危機への備えが進んでいる）と問7 - 1（性別）の「回答比率」

		2 - 1災害等の危機への備えが進んでいる				総計
		感じる	どちらかといえば感じる	どちらかといえば感じない	感じない	
7-1 男性	÷E	3.0%	21.6%	38.2%	37.2%	100.0%
女性	÷E	4.4%	24.7%	40.5%	30.4%	100.0%
男女計	÷E	3.7%	23.2%	39.4%	33.7%	100.0%

(3) 比率の差の算定

それぞれの属性項目と属性全体（＝属性項目の合計）の回答比率の差を算定しました。

【例】問2 - 1（災害等の危機への備えが進んでいる）と問7 - 1（性別）の「比率の差」

		2 - 1災害等の危機への備えが進んでいる				総計
		感じる	どちらかといえば感じる	どちらかといえば感じない	感じない	
7-1 男性	' - '	-0.7%	-1.6%	-1.2%	3.5%	
女性	' - '	0.7%	1.5%	1.1%	-3.3%	
男女計						

(4) 差の検定

回答比率の差が統計的に有意な差があるか検定を行いました。

検定結果(U)の絶対値が1.64を超える時、比率の差は統計的に有意であると言えます(危険率5%)。検定方法の詳細については前項の「統計的手法による検証」を参照

【例】問2 - 1（災害等の危機への備えが進んでいる）と問7 - 1（性別）の「差の検定」

		2 - 1災害等の危機への備えが進んでいる				総計
		感じる	どちらかといえば感じる	どちらかといえば感じない	感じない	
7-1 男性	U	-0.290	-0.747	-0.614	1.783	
女性	U	0.282	0.735	0.604	-1.672	
男女計						

上記の例では、男性は全体よりも「感じない」と回答した人の比率が高く、女性は全体よりも「感じない」と回答した割合が低くなっており、またこれらの差は、いずれも統計的に有意であると言えます。

このことから、「『災害等の危機への備えが進んでいる』と感じない人は女性よりも男性に多い」と言えます。

3 分析の手法等（第3章関係）

（1）基本的考え方

以下は、第3章の分析にあたって前提となる基本的な考え方です。

相関係数については、ピアソンの積率相関係数を算定することとします。

相関係数はいくつかの種類があり、対象となるデータにより使い分ける必要があります。今回の分析データについて、問1の回答データ(0～10点)は間隔尺度であり、また、問2の回答データ(「感じる」、「どちらかといえば感じる」、「どちらかといえば感じない」、「感じない」)は順序尺度ですが、調査票の選択肢に1～4の数字を振ってあることから、今回の分析において間隔尺度とみなしても差し支えないと考えられます。

このように判断し、問1と問2の回答間の関係を分析するにあたり、間隔尺度以上のデータに適用できる相関係数の算定及び回帰分析を行うこととしたものです。

問1と問3の関係分析、問2及び問3の設問間の関係分析についても、同様です。

〔ピアソンの積率相関係数 = XとYの共分散 ÷ (Xの標準偏差 × Yの標準偏差)〕

なお、算定の際、問2、問3の回答については、調査票の選択肢の番号「1、2、3、4」を、それぞれ「4、3、2、1」という数字に置き換え計算します。例えば、問2では、「感じる」を「4」、「どちらかといえば感じる」を「3」、「どちらかといえば感じない」を「2」、「感じない」を「1」とします。

個々人の「幸福感」がさまざまな要因に影響を受けると考えられる中で、今回の分析においては、生活の一部の側面に係る実感と「幸福感」との関係を対象としていることから、その関係を表す相関係数や回帰分析における決定係数は必然的に高い値になりにくくなります。このため、相関係数等の値が低くても(どれくらいであれば低いのかは一概に言えませんが、例えば0.1や0.2であっても)、統計的に有意(母集団の相関係数 0、回帰係数 0とみなせる)であれば、その相関係数等は十分意味を持つものとして分析を行います。

一方、相関係数等の値が低い場合は、相関係数そのものは有意であっても、相関係数の差が有意とならない可能性が高いことから、本章では、母集団(県民全体)に関する推定は行わず、標本(有効回答のあった5710人)について言える事に絞り、関係の把握に努めることとします。

（2）相関係数

相関係数は、二つの変数(いろいろな値をとりうるもの)の直線的な関係の強さを表す指標で、-1から+1までの値をとります。一方の変数の値が大きいほど他方の変数の値も大きくなる傾向があるとき、「相関係数」は正となり、正の相関関係があると言います。相関係数が1(或いは-1)に近いほど、2つの変数の分布を描いた散布図上の点が、ある直線の周りに集中する、つまり、相関関係が強いということになります。

左の散布図(a)、(b)は、どちらも正の相関関係がある場合のイメージです。相関係数の値は、(a) > (b) となります。



【相関関係と相関係数】

2つの変数 x 、 y の間で、一方が増加すると他方が増加または減少するような関係を相関または相関関係といいます。相関関係は、以下の3つの場合に分けることができます。

正の相関: x が増加(減少)すると y も増加(減少)する。

負の相関: x が増加(減少)すると y が減少(増加)する。

無相関: x の増加・減少が、 y の増加・減少と直線的な対応をしない。

相関関係の強さを数値で表したものが相関係数で、必ず - 1 から1の間の値をとります。

また、相関係数 r の値は、おおよそ次のように評価することができます。

r が1に近いほど強い正の相関関係がある。

r が - 1に近いほど強い負の相関関係がある。

r が0に近いほど相関関係は弱い。

(「よくわかる統計学 基礎編[第2版](2011年、金子治平・上藤一郎編)」より)

【相関係数の読み方】

相関係数の読み方については、次のような考え方もあり、専門家のこうした見解を考慮に入れ、分析を行う必要があります。

どのくらいの相関関係の値があれば「高い相関がある」といえるかということがしばしば問題になる。…(中略)…相関係数の値が大きい小さいかは、あくまでも相対的なものであって、いくらであれば「高い相関」で、いくら以下だと「低い相関」だというようなことを一般的に述べることはできない。ただ、次に述べる検定(相関係数の検定)を用いて、「有意でない相関係数」は低い相関だとみなしていいだろう。

(「社会調査法入門(2004年、盛山和夫著)」より)

社会事象は、コンテキスト依存性^{*1}が強い。変数と変数の間に関連性がある方がふつうなのである(盛山・近藤・岩永, 1992:99)。そのため、得られた関数が「意味ある」ためには、一定水準で有意というだけでなく、その絶対的な大きさが必要になる。…(中略)…その大きさの閾値^{*2}が学問分野によって違う。経済学では相関係数0.9以上(決定係数0.8以上)が要求されることが多いが、社会学では0.4~0.5ぐらいが目安になる。

(「実践としての統計学(2000年、佐伯胖、松原望編)」より)

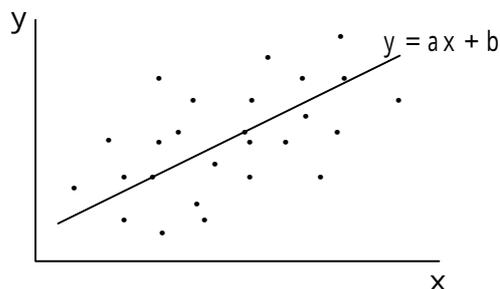
*1 コンテキスト依存性: 文脈依存性。「社会事象は、さまざまな他の事象や社会的な背景等に影響されやすい」という趣旨であると思われる。

*2 閾値: ある系に注目する反応をおこさせるとき必要な作用の大きさ・強度の最小値(広辞苑第六版)。ここでは、その値を境にして意味が変わる値のこと。

(3) 回帰係数、決定係数

一方の変数の値から他方の変数の値を予測したり、一方の変数の変化が他方の変数に与える影響を調べたりするなど、2つの変数の役割をはっきり区別して、その関係を調べる方法の一つが回帰分析。2変数(x 、 y)のデータを対象とする単回帰分析では、観測データから「 $y = ax + b$ 」で表される回帰直線を推定し、予測等を行います。この a が回帰係数(=直線の傾き)です。

このとき、 y が x によってどれくらい説明されるか(x が y をどの程度決定しているか)を表す指標が決定係数です。決定係数が、1に近いほど観測値(計算に用いた実際の数値)と予測値(式に当てはめ計算した値)が近いことを意味します。回帰係数は関係そのものを表し、決定係数は関係の強さを表すと言えます。



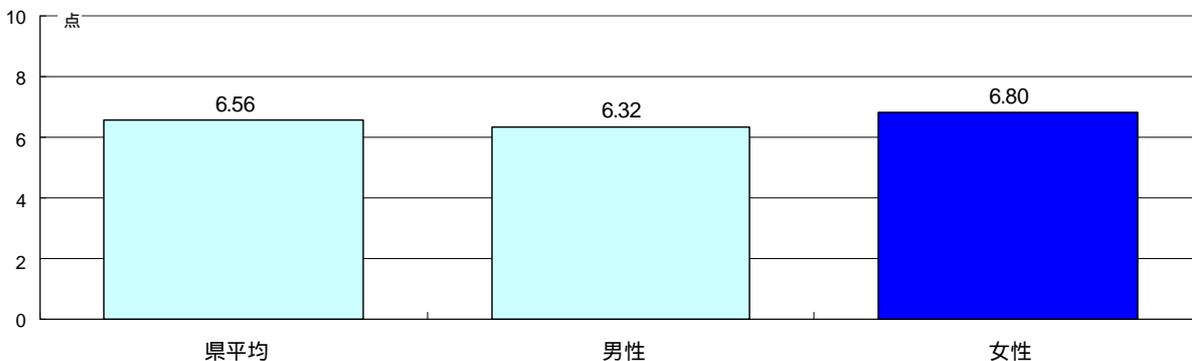
1 一属性のクロス分析

第1章 4ページ関係

1(1) 性別

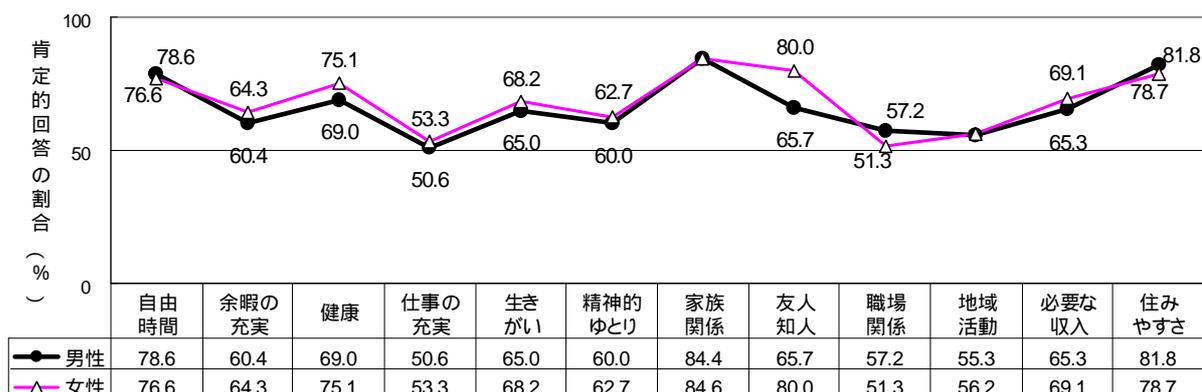
性別から幸福感を分析したところ、女性の方が男性より幸福感が高くなっています。

図表：性別の幸福感



女性の暮らしの実感を見ると、男性より、「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

図表：男女別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

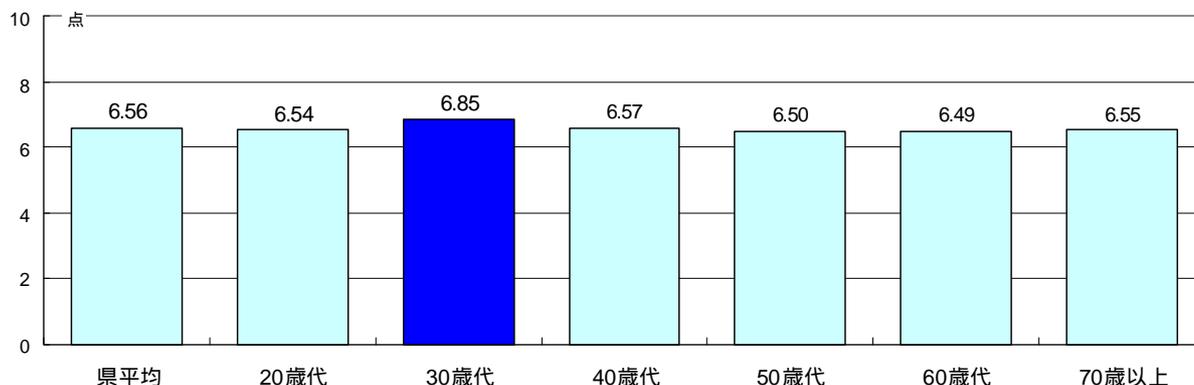
女性は男性より幸福感が高くなっています。

また女性は、男性より「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

1(2)年代別

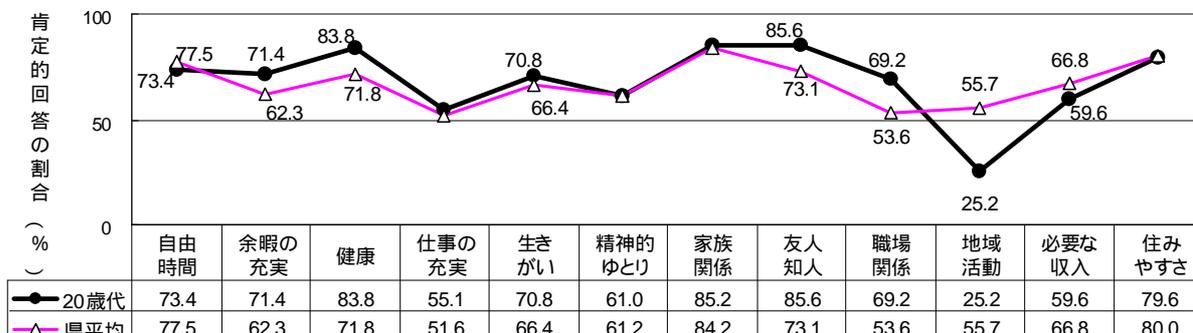
幸福感を年代別に見たところ、30歳代が県平均より高くなっています。それ以外の年代と県平均との差に統計的に有意な差は見られません。

図表：年代別の幸福感



20歳代の暮らしの実感を見ると、県平均より、「必要な収入」や「自由な時間」がなく、「ご近所付き合いや地域での活動」はしていない一方、「相談できる友人や知人」があり、「職場での人間関係」が良好で、「余暇が充実」しているなどと感じています。

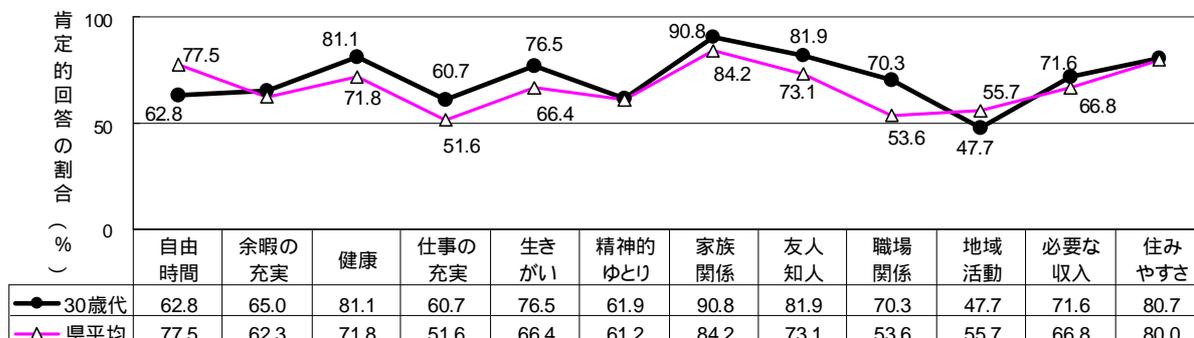
図表：20歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

30歳代の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」はない一方、「健康」で「生きがい」や「必要な収入」はあり、「家族との関係」や「職場での人間関係」は良好で、「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

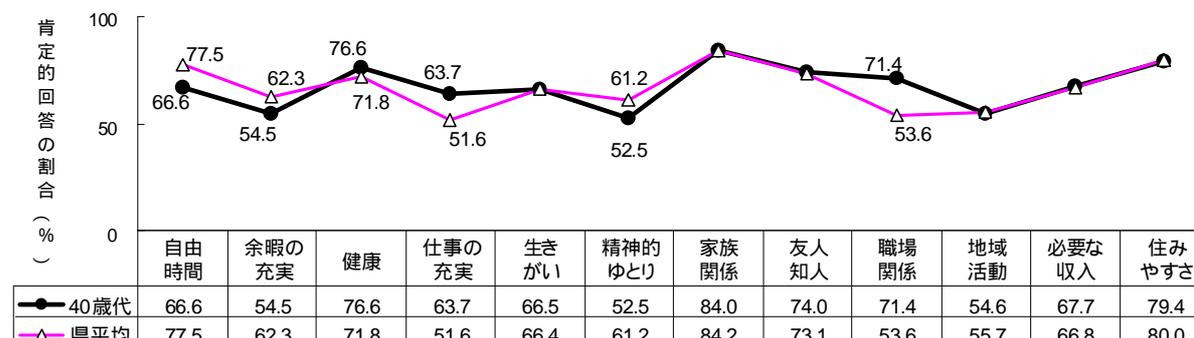
図表：30歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

40歳代の暮らしの実感を見ると、県平均より、「仕事は充実」し、「職場での人間関係」は良好であると感じているものの、「自由な時間」や「精神的ゆとり」がなく、「余暇は充実」していないなどと感じています。

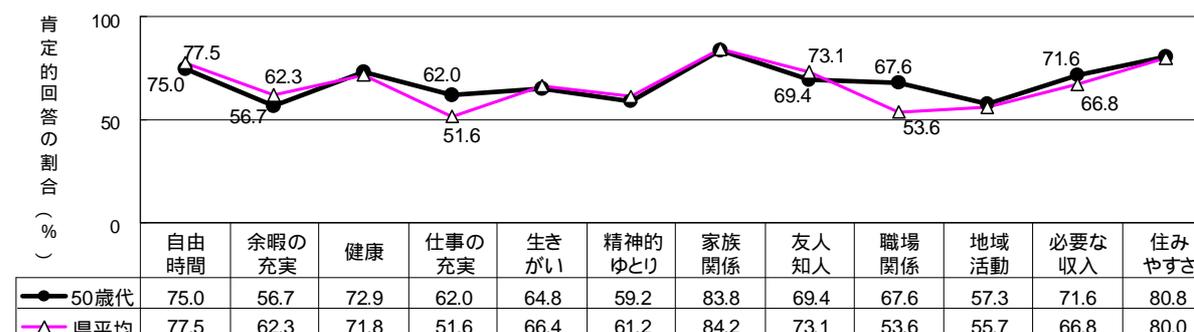
図表：40歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

50歳代の暮らしの実感を見ると、県平均より、「仕事は充実」し、「職場での人間関係」が良好で、「必要な収入」がある一方、「自由な時間」がなく、「余暇は充実」しておらず、「相談できる友人や知人」がいないなどと感じています。

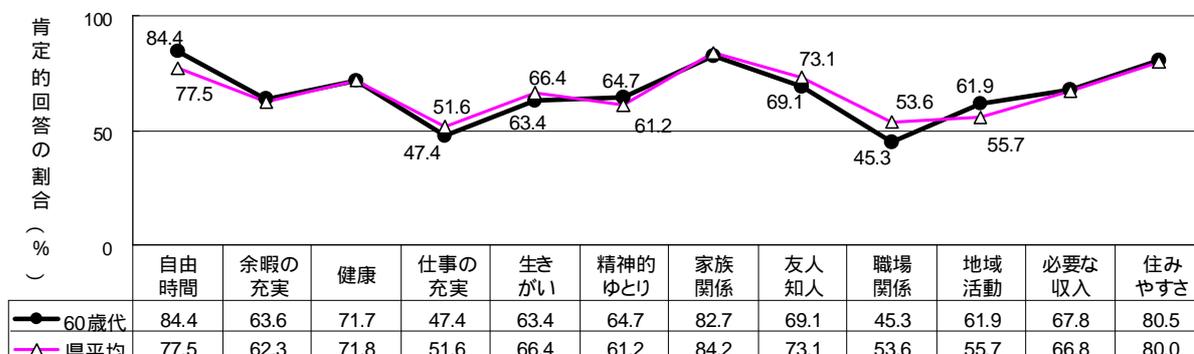
図表：50歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

60歳代の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」や「精神的なゆとり」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしている一方、「生きがい」がなく、「相談できる友人や知人」がないなどと感じています。

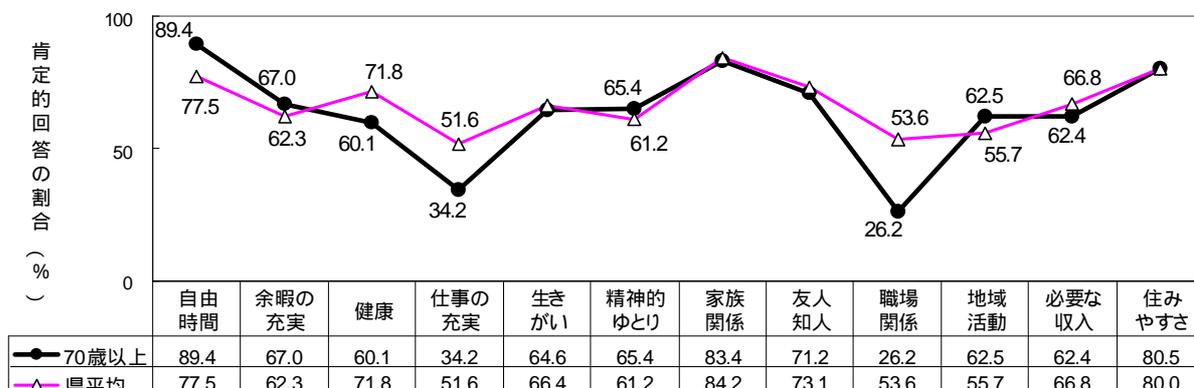
図表：60歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

70歳以上の暮らしの実感を見ると、県平均より、「健康」でなく、「必要な収入」がないと感じる一方、「自由な時間」や「精神的なゆとり」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

図表：70歳以上の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

年代別では30歳代の幸福度が高く、それ以外の年代では特に差はありません。

暮らしの実感について、30歳代は県平均より「家族との関係」が良好で、20歳代と同様に「生きがい」があり、「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

40歳代は「精神的ゆとり」がなく、50歳代と同様に、「自由な時間」もなく「余暇は充実」していないなどと感じています。

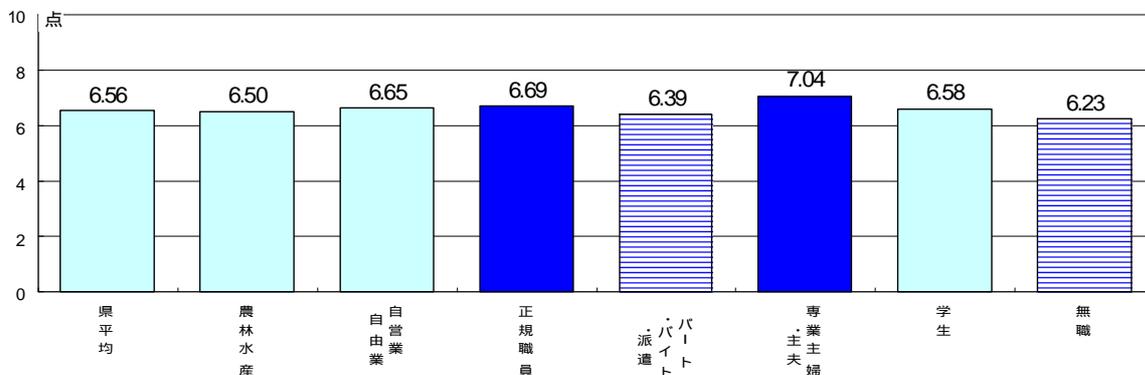
60歳以上は「自由な時間」や「精神的なゆとり」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じ、また70歳以上では「余暇は充実」しているなどと感じています。

1(3) 職業別

第1章 4ページ関係

幸福感を職業別に見たところ、専業主婦・主夫と正規職員が県平均より高く、無職とパート・バイト派遣が低くなっています。

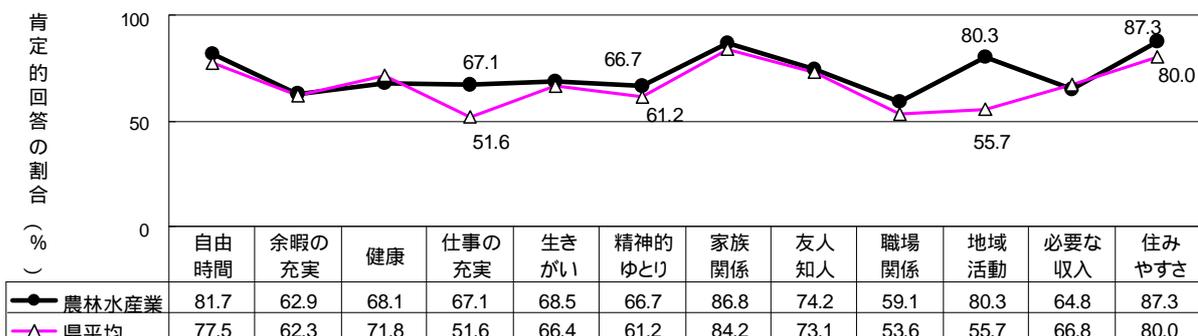
図表：職業別の幸福感



農林水産業、自営業・自由業、学生と県平均との間に統計的に有意な差は見られない。

農林水産業の暮らしの実感を見ると、県平均より、地域は「住みやすく」、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているほか、「仕事は充実」し、「精神的なゆとり」があるなどと感じています。

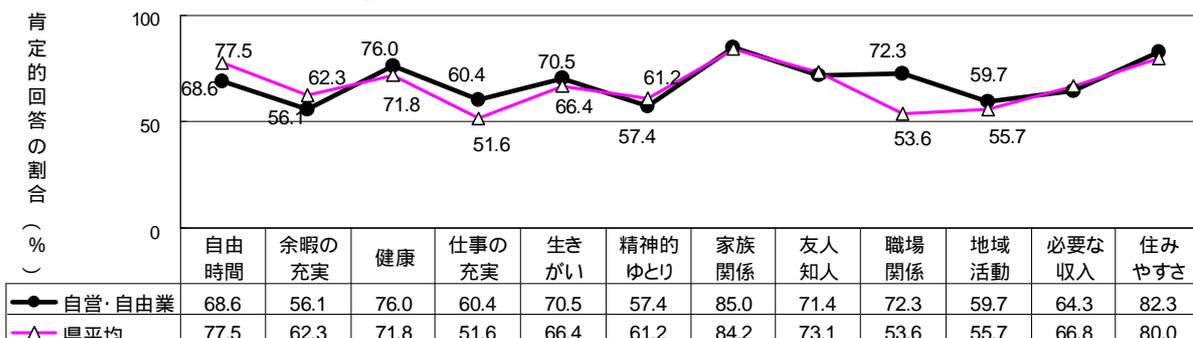
図表：農林水産業の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

自営業・自由業の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」や「精神的なゆとり」はなく、「余暇は充実」していないものの、「職場での人間関係」は良好で、「仕事は充実」しており、「健康」で「生きがい」があるなどと感じています。

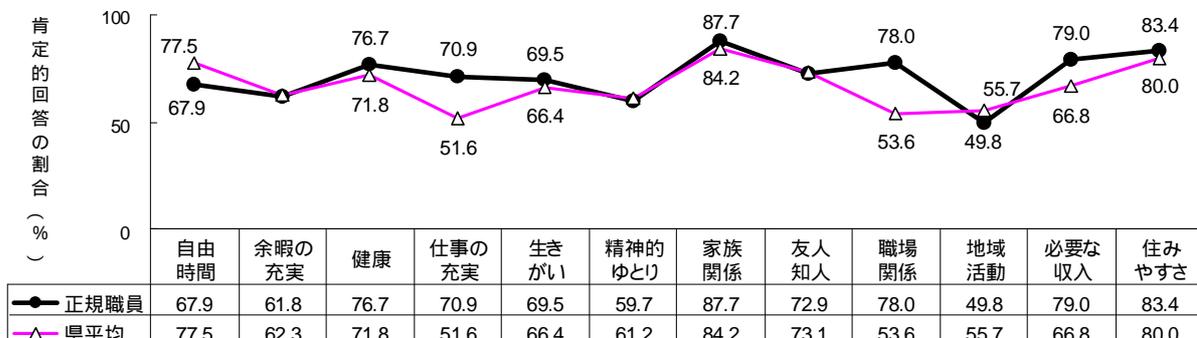
図表：自営業・自由業の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

正規職員の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」はなく「ご近所付き合いや地域での活動」はしていないものの、「職場での人間関係」や「家族との関係」は良好で、「仕事は充実」しており、「健康」で「必要な収入」や「生きがい」があるなどと感じています。

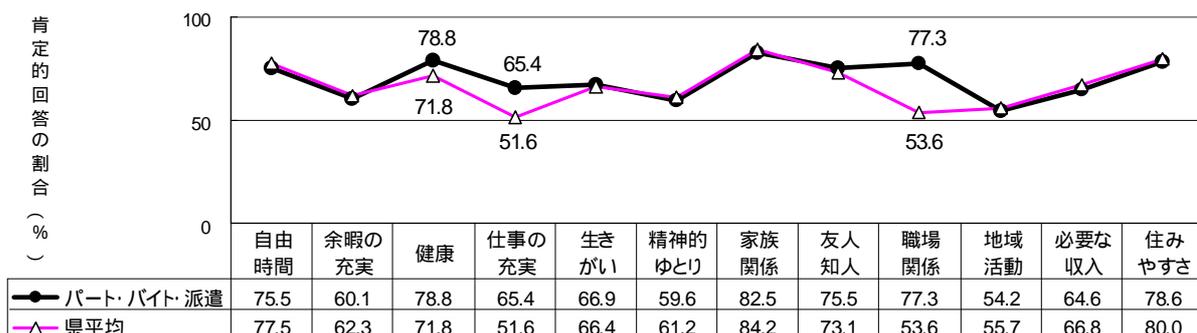
図表：正規職員の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

パート・バイト・派遣の暮らしの実感を見ると、県平均より、「健康」で、「仕事は充実」しており、「職場での人間関係」は良好であるなどと感じています。

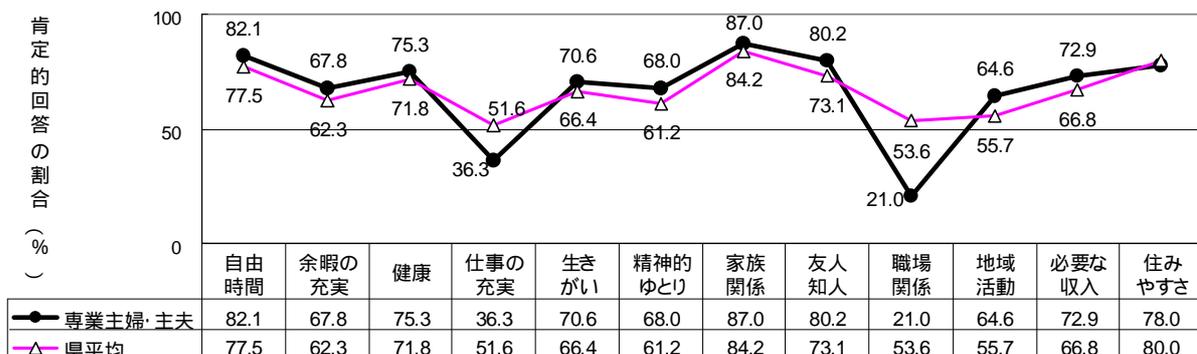
図表：パート・バイト・派遣の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

専業主婦・主夫の暮らしの実感を見ると、県平均より、「健康」で「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」や「生きがい」があり、「家族との関係」は良好で「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

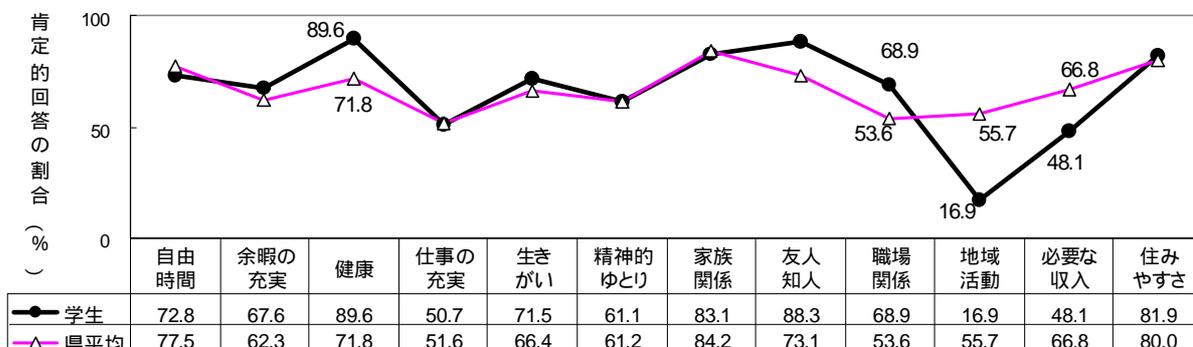
図表：専業主婦・主夫の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

学生の暮らしの実感を見ると、県平均より、「必要な収入」がなく「ご近所付き合いや地域での活動」はしていないものの、「健康」であるなどと感じています。

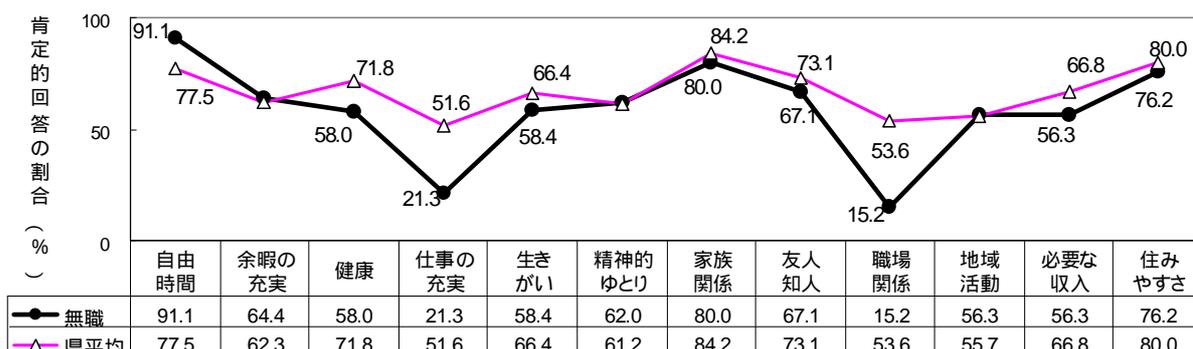
図表：学生の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

無職の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」あるものの、「健康」でなく、「必要な収入」や「生きがい」がないなどと感じています。

図表：無職の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

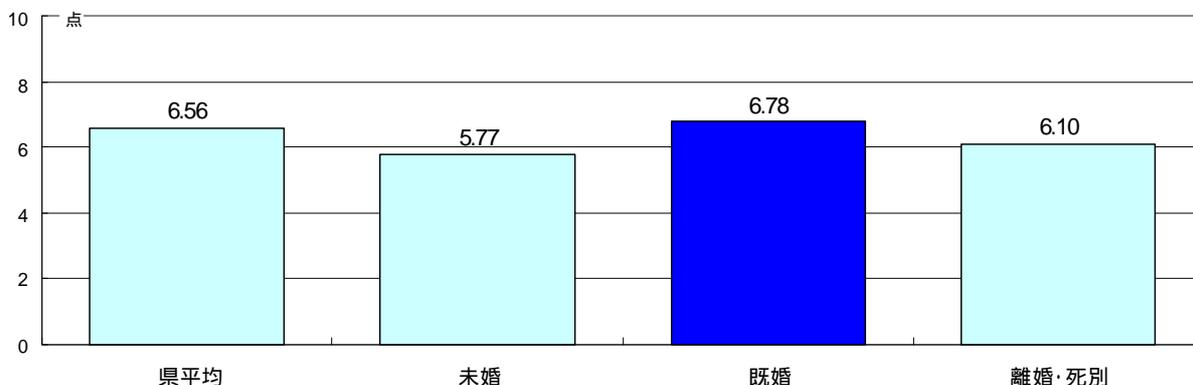
【要点】
 職業別の幸福度を見ると、専業主婦・主夫、正規職員が高く、無職とパート・バイト・派遣が低くなっています。

1(4) 結婚別

第1章 4ページ関係

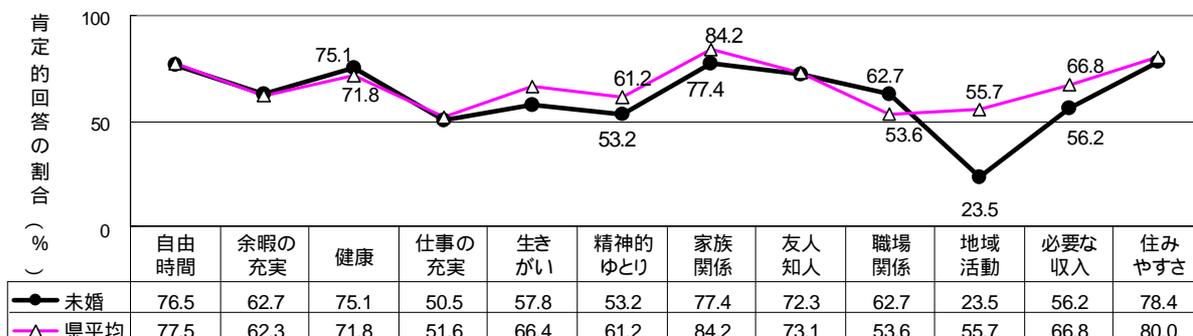
幸福度を結婚別に見たところ、既婚の幸福度が最も高くなっています。

図表：結婚別の幸福度



未婚の暮らしの実感を見ると、県平均より、「健康」で「職場での人間関係」は良好であるものの、「ご近所付き合いや地域での活動」はしておらず、「精神的なゆとり」や「必要な収入」がなく、さらに「家族との関係」は良好でないなどと感じています。

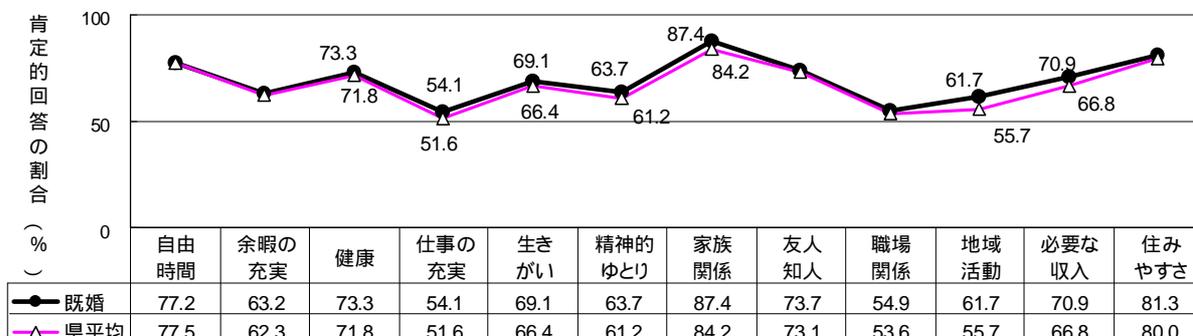
図表：未婚の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

既婚の暮らしの実感を見ると、県平均より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしており、「家族との関係」が良好で、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」があるなどと感じています。

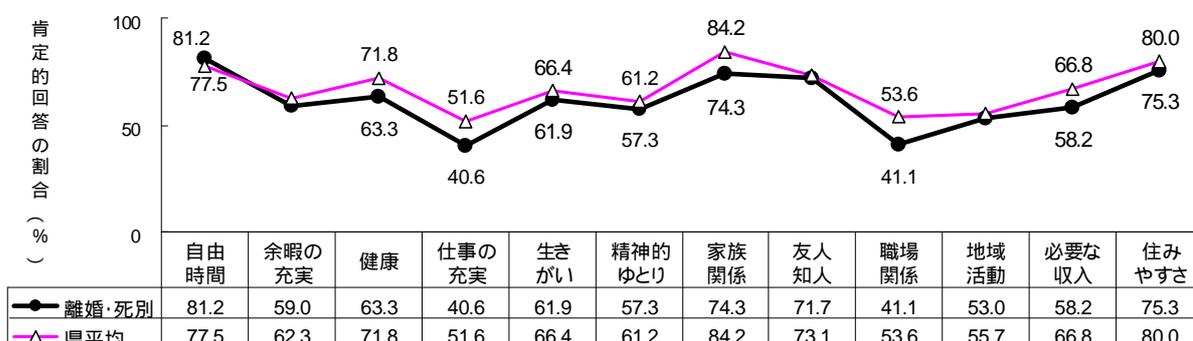
図表：既婚の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

離婚・死別の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」はあるものの、「職場での人間関係」が良好でなく、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がないなどと感じています。

図表：離婚・死別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

結婚別の幸福度は、既婚がもっとも高くなっています。

未婚は、県平均より、「ご近所付き合いや地域での活動」はしておらず、「精神的なゆとり」や「必要な収入」がなく、さらに「家族との関係」は良好でないなどと感じています。

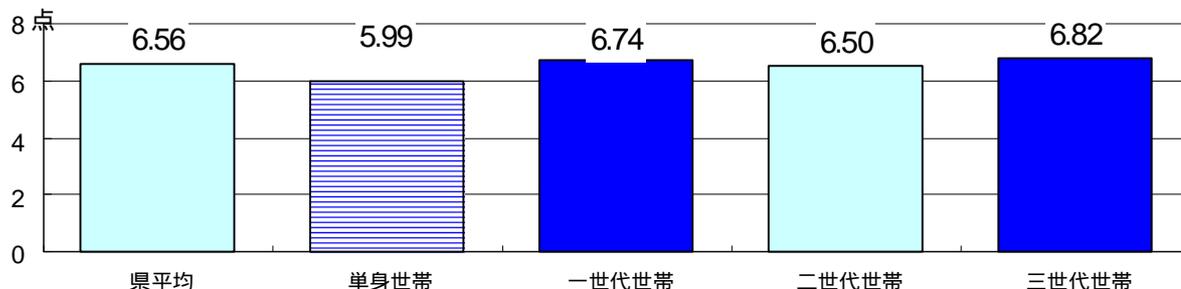
既婚は、ご近所付き合いや地域での活動」をしており、「家族との関係」が良好で、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」があるなどと感じています。

離婚・死別は、「自由な時間」はあるものの、「家族との関係」や「職場での人間関係」は良好でなく、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がないなどと感じています。

1(5) 世帯構成別

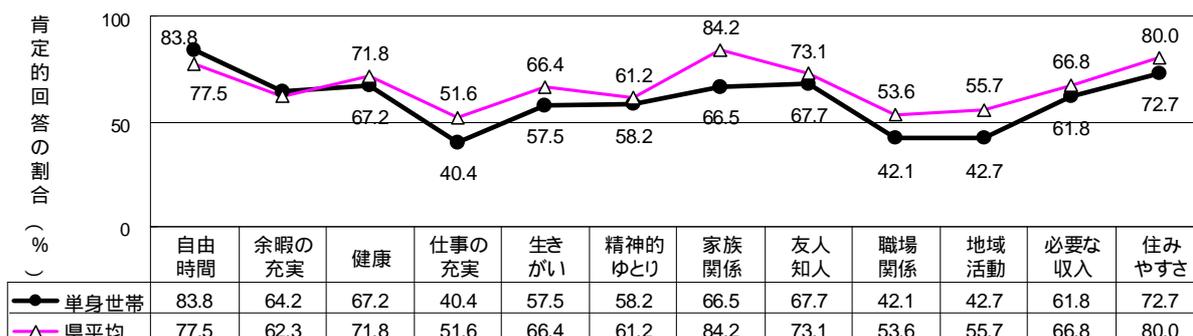
幸福度を世帯構成別に見たところ、単身世帯が県平均より低く、一世代世帯と三世代世帯が県平均より高くなっています。

図表：世帯構成別の幸福度



単身世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」はあるものの、「仕事は充実」しておらず、「家族との関係」や「職場での人間関係」は良好ではなく、「生きがい」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がないなどと感じています。

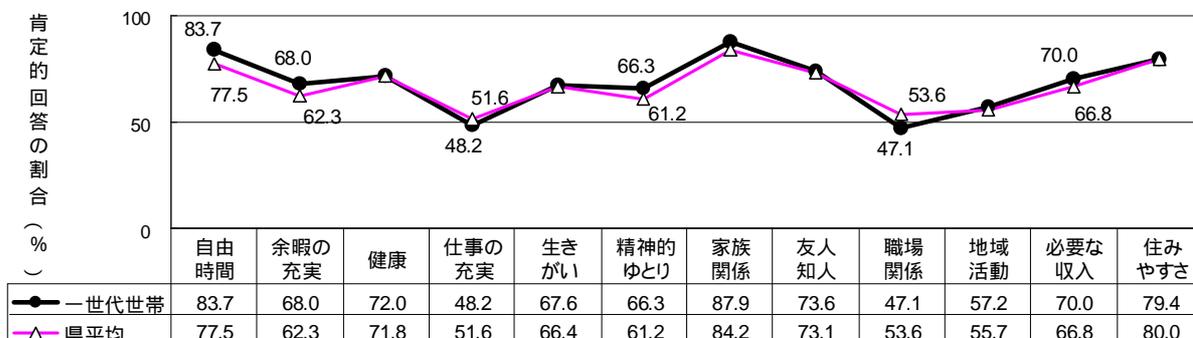
図表：単身世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

一世代世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」があり、「余暇は充実」しているなどと感じています。

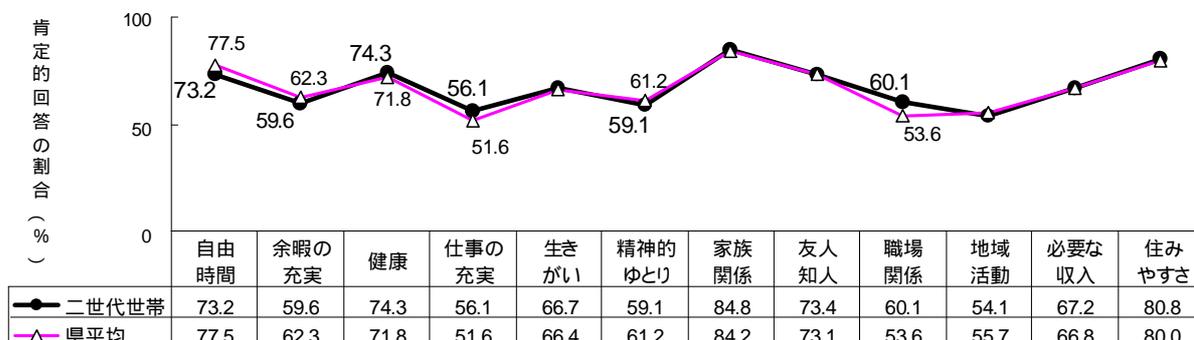
図表：一世代世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

二世代世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「健康」で「仕事は充実」しており、「職場での人間関係」は良好であるものの、「自由な時間」や「精神的なゆとり」がないなどと感じています。

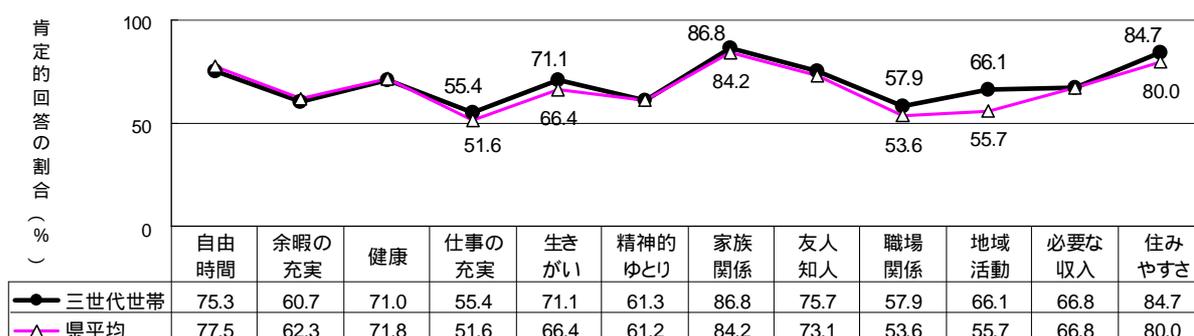
図表：二世代世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

三世代世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「仕事は充実」しており、「家族との関係」が良好で「生きがい」があり、さらに「ご近所付き合いや地域での活動」をし、地域は「住みやすい」などと感じています。

図表：三世代世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

世帯別の幸福感を見ると、県平均より単身世帯が低く、一世代世帯と三世代世帯が高くなっています。

単身世帯は、県平均より、「自由な時間」はあるものの、「仕事は充実」しておらず、「家族との関係」や「職場での人間関係」は良好ではなく、「生きがい」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がないなどと感じています。

一世代世帯は、「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」があり、「余暇は充実」しているなどと感じています。

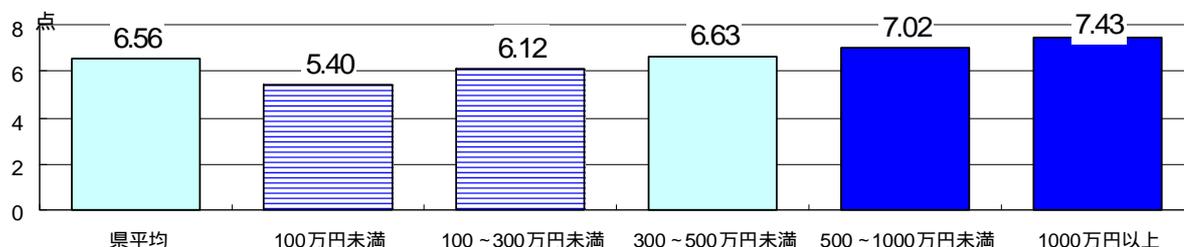
二世代世帯は、「健康」で「仕事は充実」しており、「職場での人間関係」は良好であるものの、「自由な時間」や「精神的なゆとり」がないなどと感じています。

三世代世帯は、「仕事は充実」しており、「家族との関係」が良好で「生きがい」があり、さらに「ご近所付き合いや地域での活動」をし、地域は「住みやすい」などと感じています。

1(6)世帯収入別

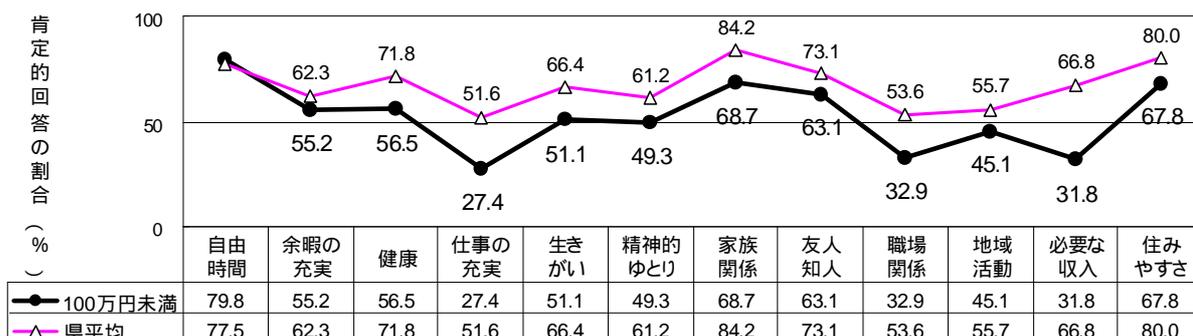
幸福度を世帯収入別に見たところ、300万円未満の世帯は県平均より低く、500万円以上の世帯は県平均より高くなっています。

図表：世帯収入別の幸福度



世帯収入が100万円未満の世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でなく、また「余暇」や「仕事」は充実しておらず、地域は「住みにくい」などと感じています。

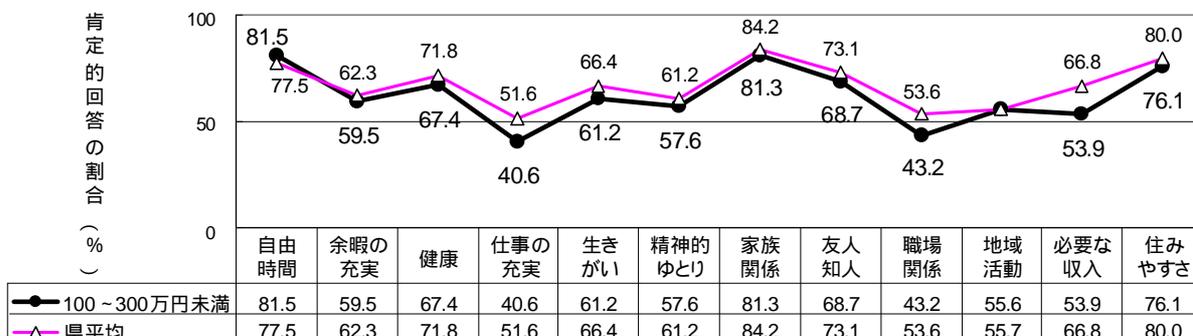
図表：世帯収入100万円未満の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

世帯収入が100~300万円未満の世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「自由な時間」はあるものの、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がなく、「職場での人間関係」や「家族との関係」が良好でないなどと感じています。

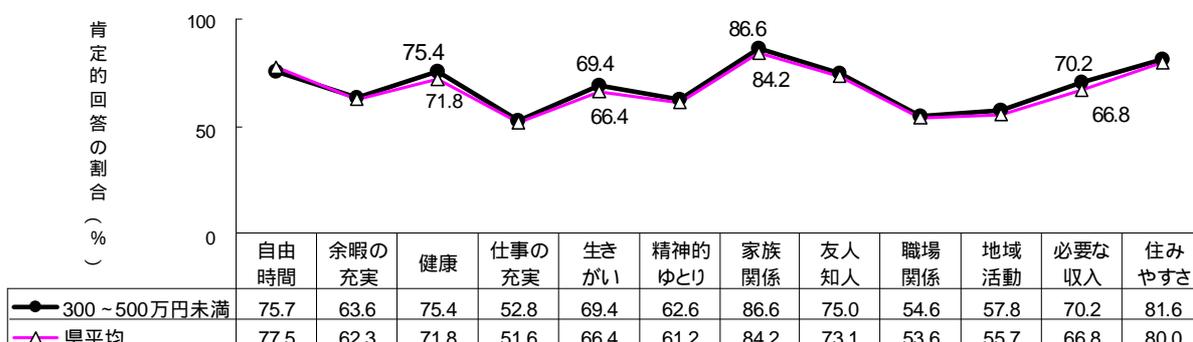
図表：世帯収入100~300万円未満の世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

世帯収入が300～500万円未満の世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「健康」で「必要な収入」や「生きがい」があり、「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

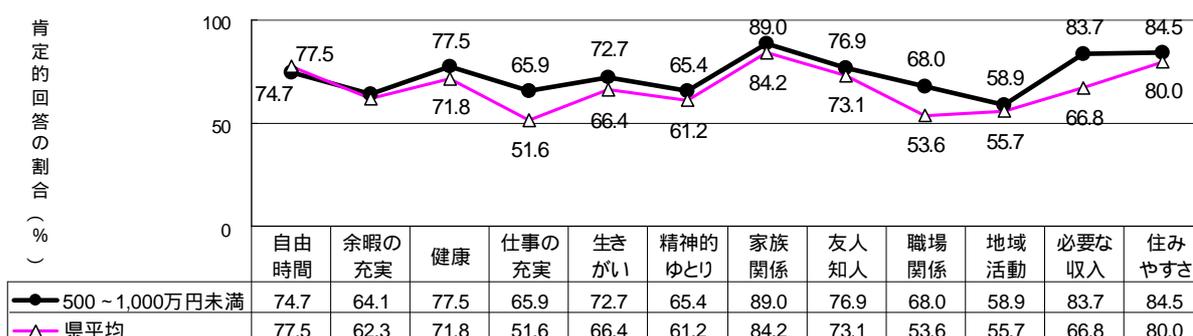
図表：世帯収入300～500万円の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

世帯収入が500～1,000万円未満の世帯の暮らしの実感を見ると、県平均と比べ、「自由な時間」はないものの、「仕事は充実」しており、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」があり、「健康」で「職場での人間関係」や「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

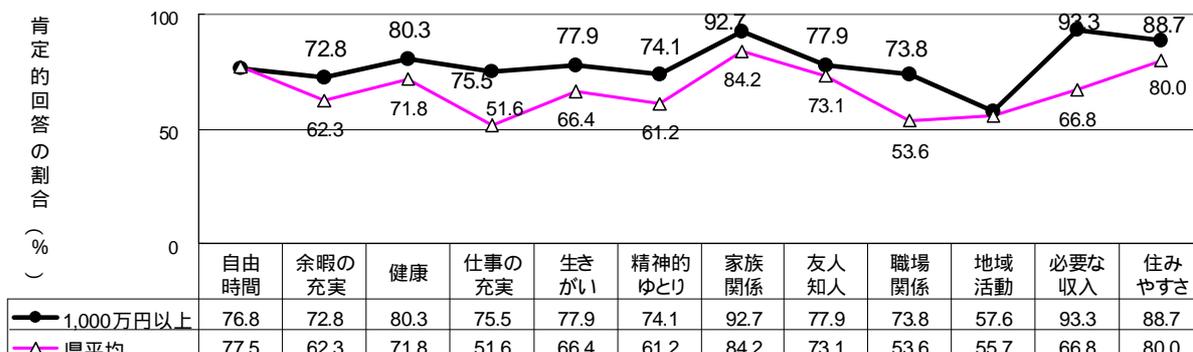
図表：世帯収入500～1,000万円の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

世帯収入が1,000万円以上の世帯の暮らしの実感を見ると、県平均より、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」があり、「余暇」や「仕事」は充実しており、「職場での人間関係」や「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

図表：世帯収入1,000万円以上の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

幸福感を世帯収入別に見ると、300万円未満の世帯は県平均より低く、500万円以上の世帯は県平均より高くなっています。

世帯収入が300万円未満の世帯では、県平均より、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でないなどと感じています。

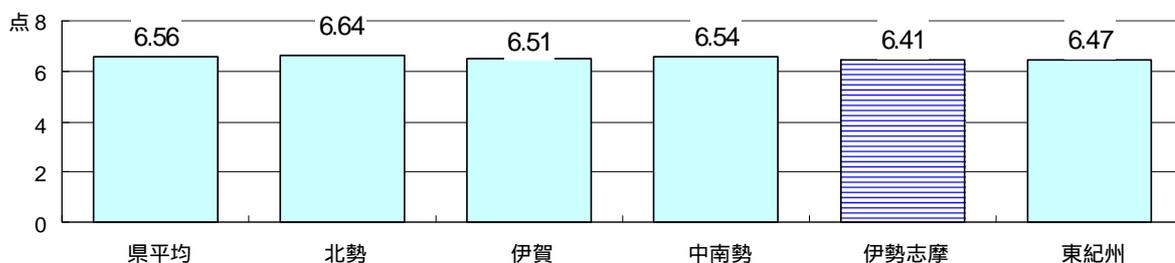
世帯収入が300～500万円未満の世帯では、「健康」で「必要な収入」や「生きがい」があり、「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

世帯収入が500万円以上の世帯では、「仕事は充実」しており、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」があり、「健康」で「職場での人間関係」や「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

1(7) 地域別

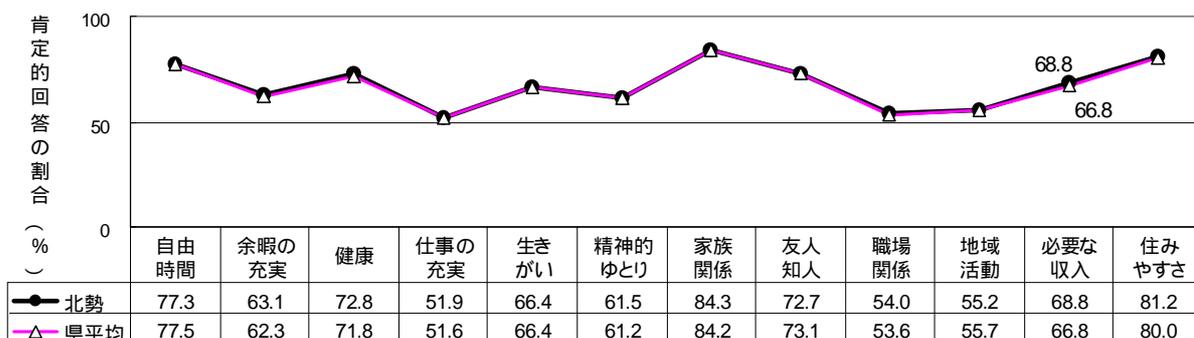
幸福度を地域別に見たところ、伊勢志摩が県平均より低くなっていますが、他の属性と比べ大きな差は見られません。

図表：地域別の幸福度



北勢地域の暮らしの実感を見ると、県平均より、「必要な収入」あるなどと感じています。

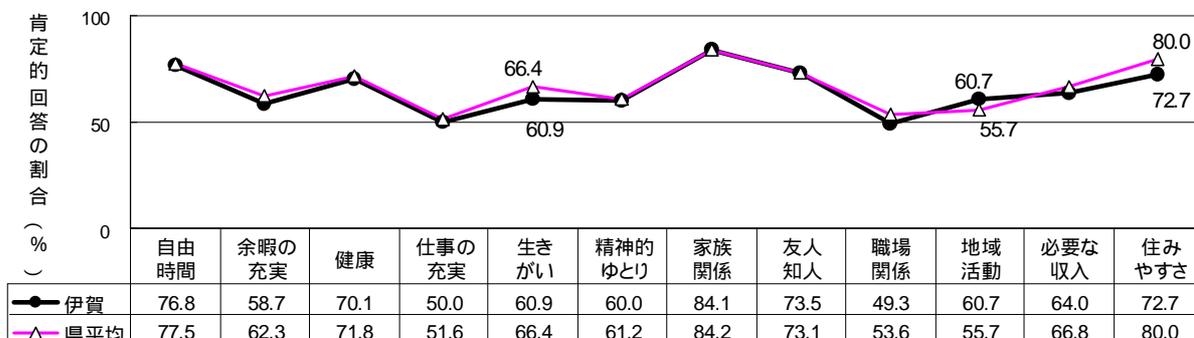
図表：北勢地域の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

伊賀地域の暮らしの実感を見ると、県平均より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしている一方、「生きがい」がなく、地域は「住みにくい」などと感じています。

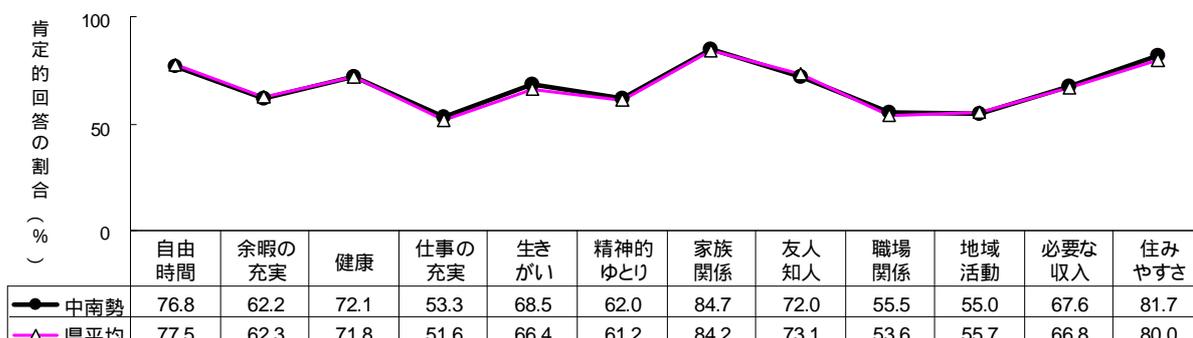
図表：伊賀地域の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

中南勢地域の暮らしの実感を見ると、県平均と同様の結果となっています。

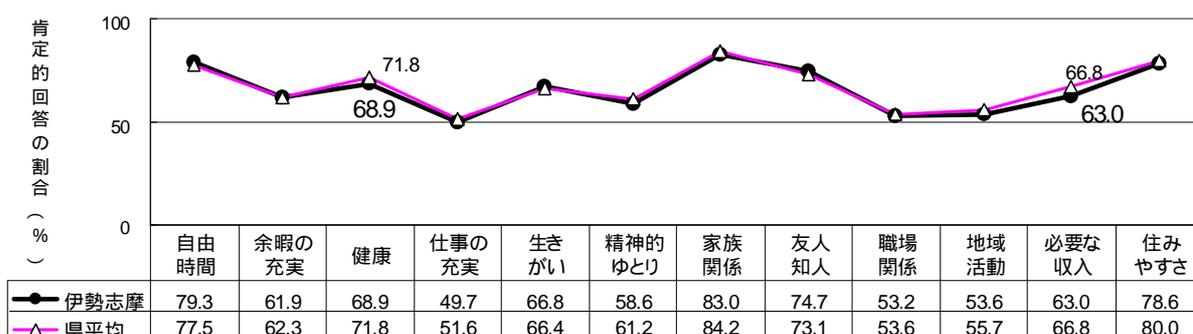
図表：中南勢地域の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

伊勢志摩地域の暮らしの実感は、県平均と比べ、「必要な収入」がなく、「健康」でないなどと感じています。

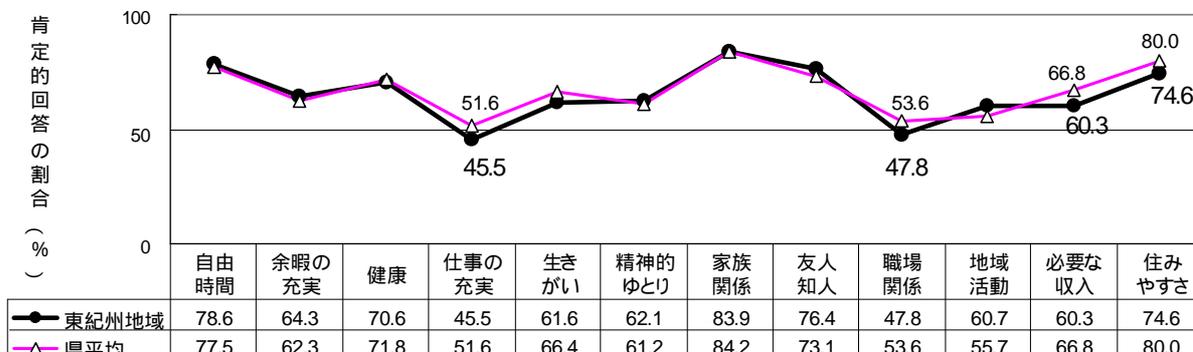
図表：伊勢志摩地域の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

東紀州地域の暮らしの実感は、県平均より、「仕事は充実」しておらず、「職場での人間関係」が良好でなく、「必要な収入」がなく、地域は「住みにくい」などと感じています。

図表：東紀州地域の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

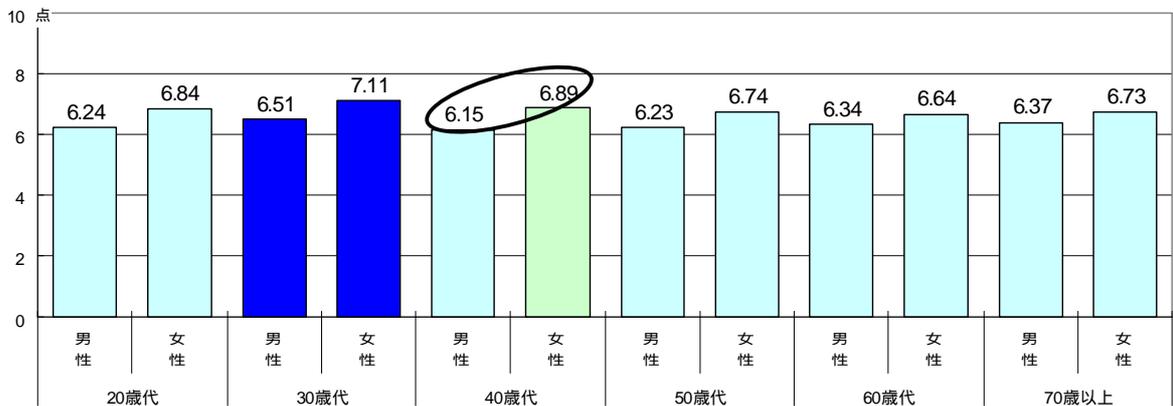
【要点】 地域別の幸福度は、他の属性と比べ大きな差は見られません。

2 二以上の属性によるクロス分析

2(1) 性別×年代別

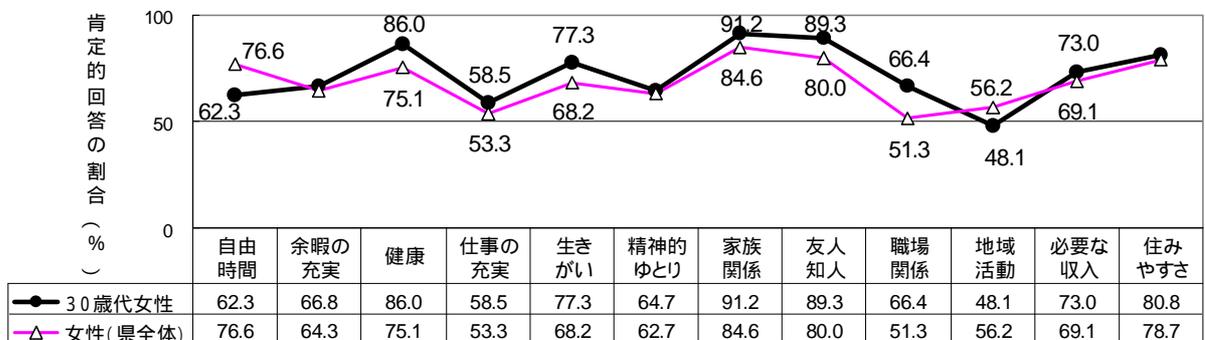
第1章 7ページ関係

性別、年代別の幸福度を見たところ、いずれの年代でも女性が男性より幸福度が高く、もっとも高いのは30歳代女性で、もっとも低いのは40歳代男性となっています。また、男女の差は40歳代がもっとも大きくなっています。



30歳代女性の暮らしの実感を見ると、県全体の女性平均より、「自由な時間」はないと感じているものの、「健康」で「生きがい」があり、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好で、「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

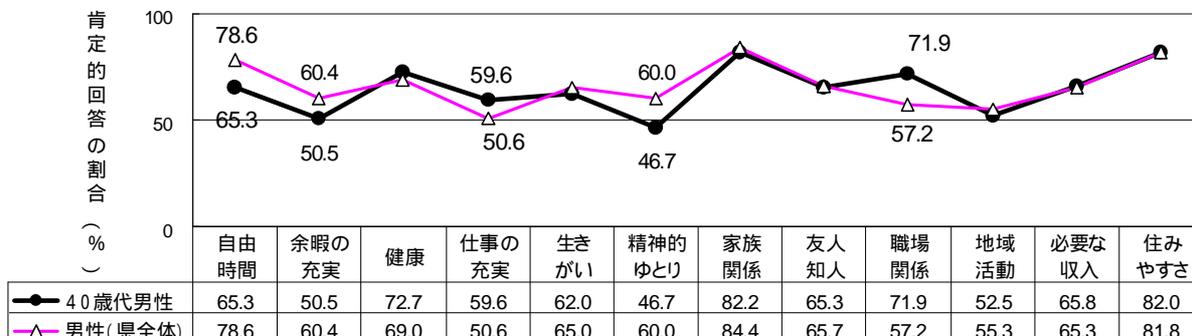
図表：30歳代の女性、結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

40歳代男性の暮らしの実感を見ると、県全体の男性平均より、「仕事は充実」しており、「職場での人間関係」は良好であると感じているものの、「自由な時間」や「精神的なゆとり」がなく、「余暇は充実」していないなどと感じています。

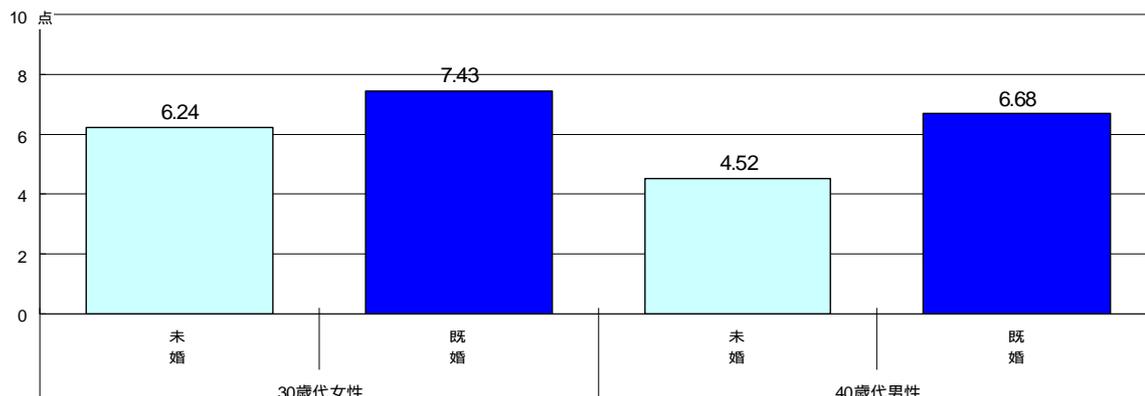
図表：40歳代の男性の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

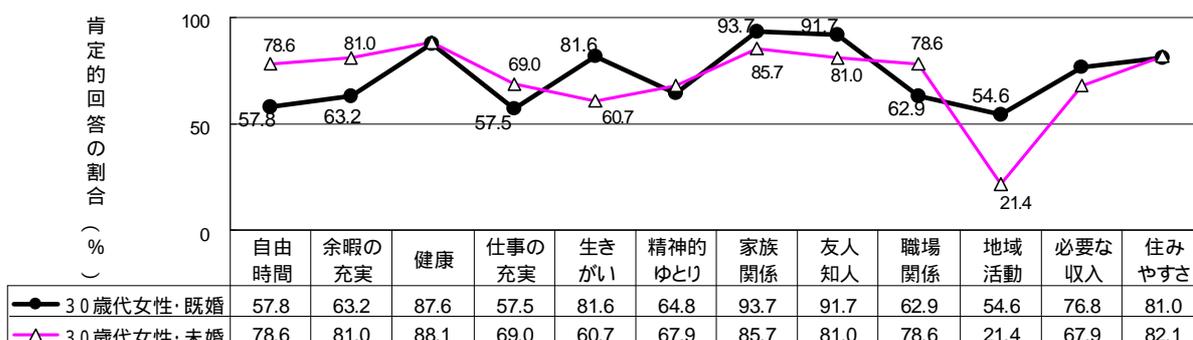
30歳代女性と40歳代男性について、さらに結婚別の幸福感を見ると、いずれも既婚と未婚の差が大きくなっています。

図表：30歳代女性と40歳代男性の結婚別の幸福感



既婚の30歳代女性の暮らしの実感を見ると、未婚の30歳代女性より、「自由な時間」がなく、「余暇は充実」していないと感じているものの、「生きがい」があり、「家族との関係」は良好で、「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

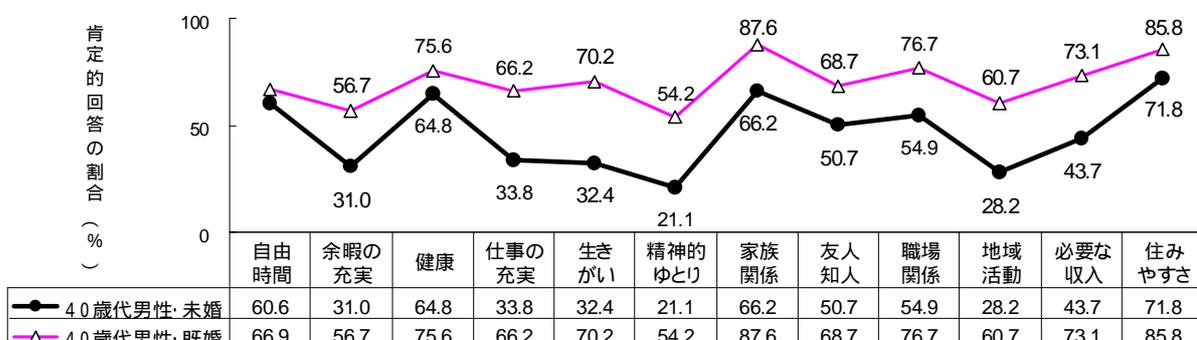
図表：30歳代の女性、結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

未婚の40歳代男性の暮らしの実感を見ると、既婚の40歳代男性より、「生きがい」、「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でないと感じ、また「余暇は充実」していないなどと感じています。

図表：40歳代の男性、結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

いずれの年代でも女性が男性より幸福度が高くなっています。

もっとも幸福度の高い30歳代女性は、県全体の女性平均より「健康」で「生きがい」があり、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好で、「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

既婚の30歳代女性はさらに幸福度が高く、未婚よりも「生きがい」があり、「家族との関係」は良好で、「相談できる友人や知人」がいるなどと感じています。

もっとも幸福度の低い40歳代男性は、県全体の男性平均より「仕事は充実」し、「職場での人間関係」は良好と感じているものの、「自由な時間」や「精神的なゆとり」がなく、「余暇は充実」していないなどと感じています。

未婚の40歳代男性はさらに幸福度が低く、既婚より、「生きがい」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でないと感じ、また「余暇は充実」していないなどと感じています。

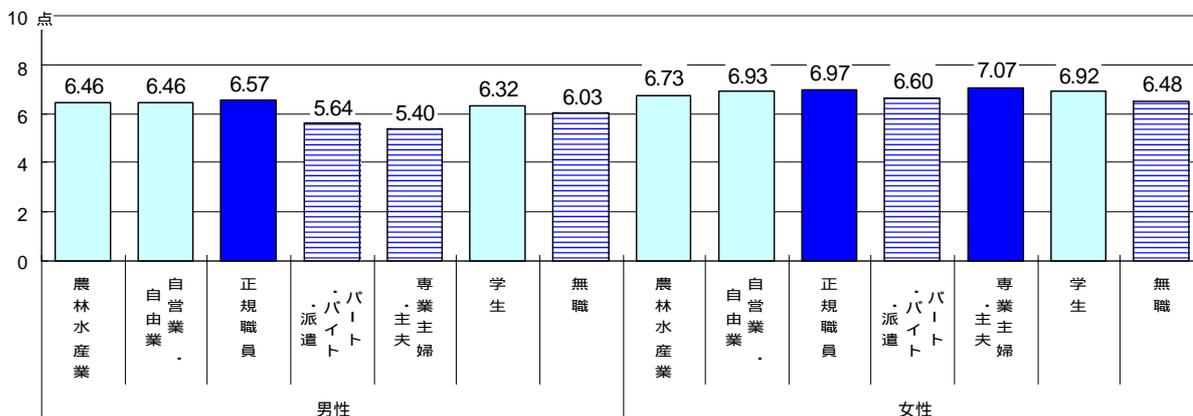
2(2) 性別×職業別

第1章 8ページ関係

性別、職業別の幸福感を見たところ、男性では、正規職員が男性平均よりも幸福感が高く、パート・バイト・派遣と専業主夫(n=10)及び無職の幸福感が低くなっています。

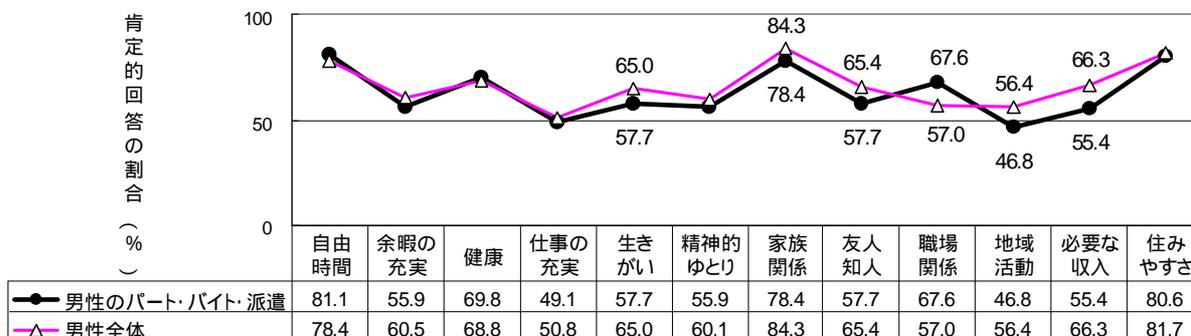
女性では、正規職員と専業主婦が女性平均よりも幸福感が高く、パート・バイト・派遣と無職は低くなっています。パート・バイト・派遣については男女の差が大きくなっています。

図表：性別、職業別の幸福感



幸福感の低い男性のパート・バイト・派遣の暮らしの実感を見ると、男性全体より、「必要な収入」や「生きがい」がなく、「家族との関係」が良好でないなどと感じています。

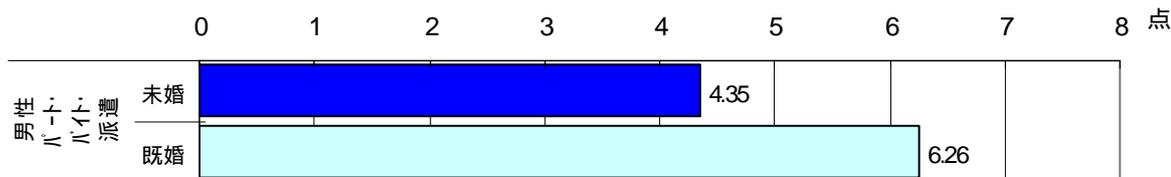
図表：男性のパート・バイト・派遣の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

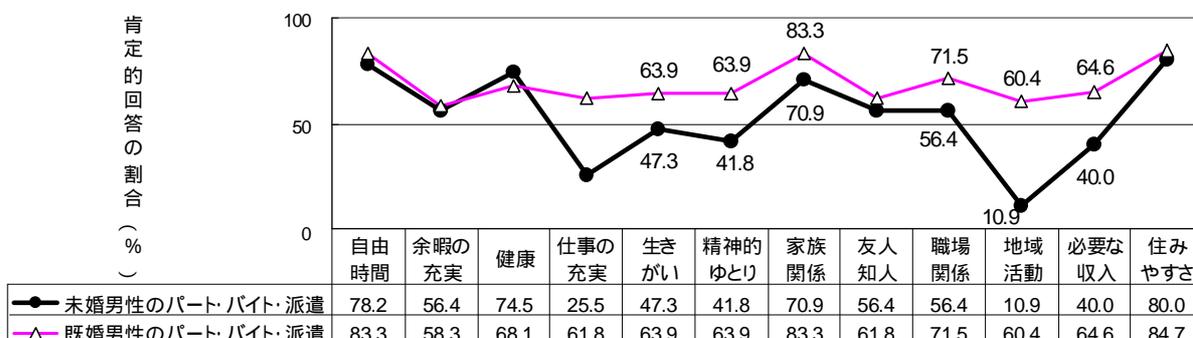
男性のパート・バイト・派遣の幸福感について、さらに結婚別でみると、特に未婚の幸福感が低くなっています。

図表：男性、パート・バイト・派遣の結婚別の幸福感



未婚男性のパート・バイト・派遣の暮らしの実感を見ると、既婚男性のパート・バイト・派遣より、「必要な収入」や「精神的なゆとり」、「生きがい」がなく、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でないなど感じています。

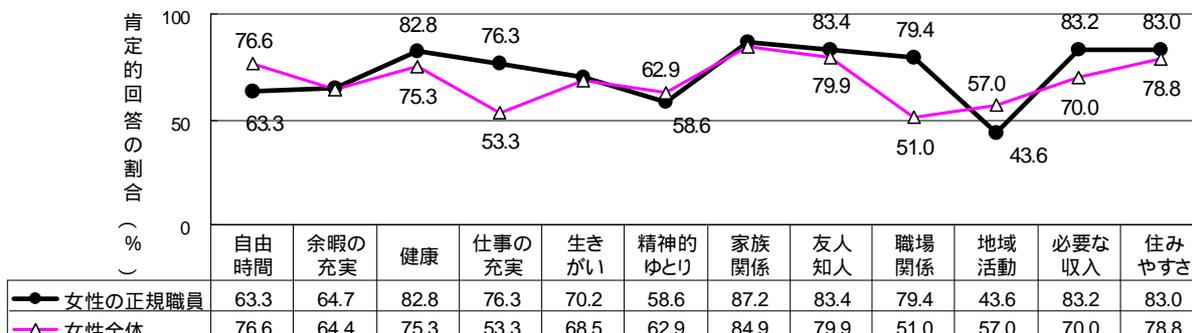
図表：男性、パート・バイト・派遣及び無職の未婚の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

既婚女性の正規職員の暮らしの実感を見ると、女性全体より、「自由な時間」や「精神的なゆとり」はないものの、「健康」で「必要な収入」があり、「相談できる友人や知人」がいるなど感じています。

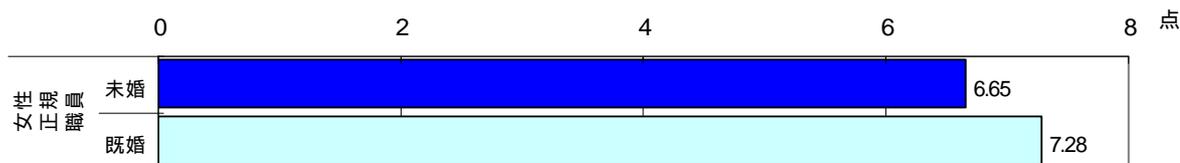
図表：女性正規職員の結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

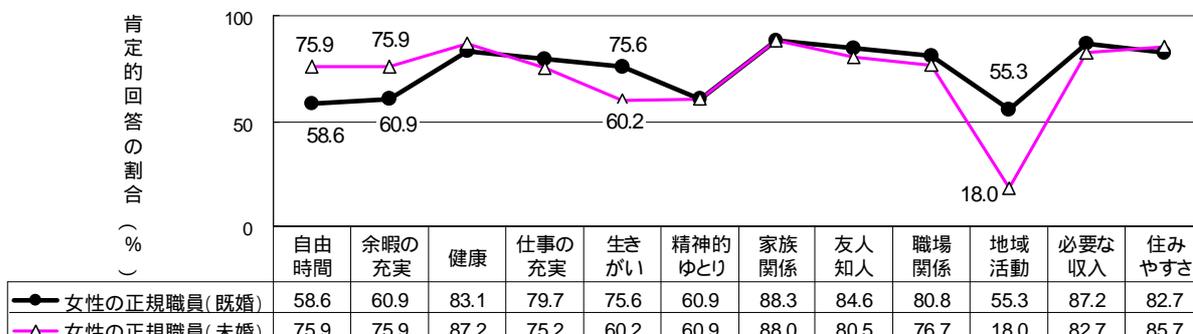
女性の正規職員について、さらに結婚別で幸福感みると、既婚の方が未婚より幸福感が高くなっています。

図表：女性、正規職員の結婚別の幸福感



既婚女性の正規職員の暮らしの実感を見ると、未婚女性の正規職員より、「自由な時間」はなく、「余暇は充実」していないものの、「生きがい」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

図表：女性正規職員の結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

男性は、パート・バイト・派遣及び無職の幸福度が低くなっています。

男性のパート・バイト・派遣では特に未婚の幸福度が低く、既婚のパート・バイト・派遣より、「必要な収入」や「精神的なゆとり」、「生きがい」がなく、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でないなどと感じています。

女性は、専業主婦及び正規職員の幸福度が高く、パート・バイト・派遣と無職は低くなっています。

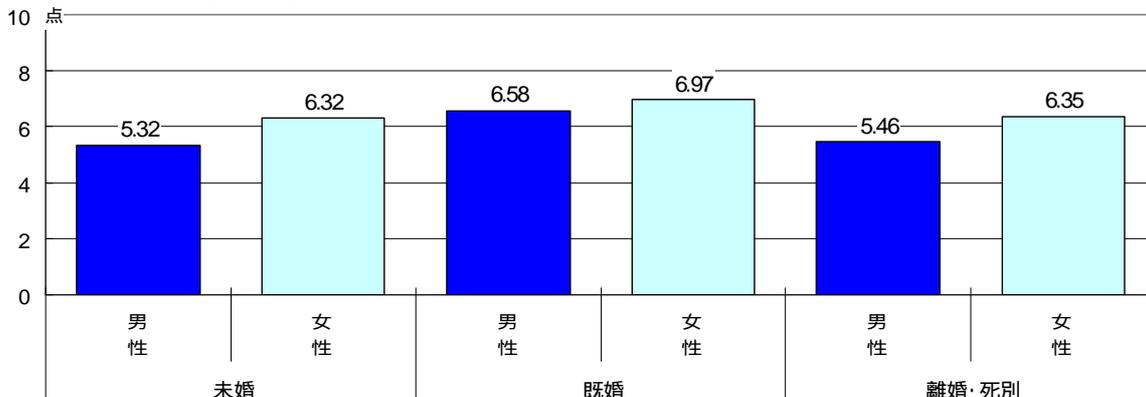
既婚女性の正規職員はより高く、未婚女性の正規職員より、「自由な時間」はなく、「余暇は充実」していないものの、「生きがい」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

2(3) 性別×結婚別

第1章 9ページ関係

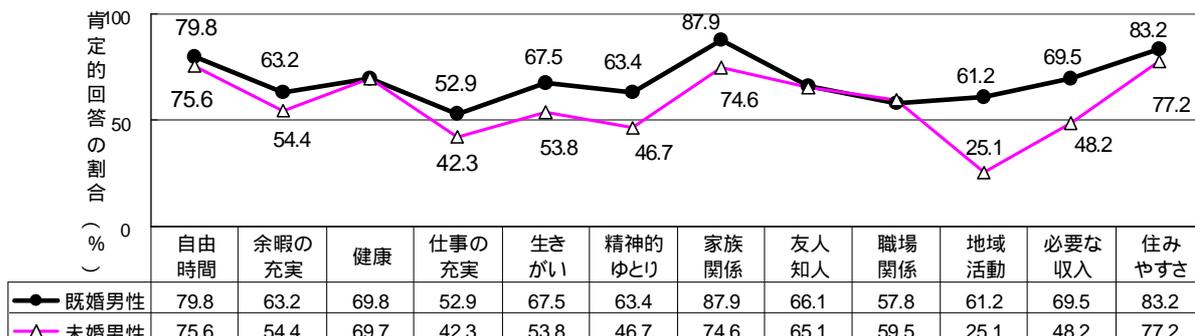
性別、結婚別に幸福感をみたところ、男女とも、未婚、離婚・死別より既婚の方が幸福感は高く、男性の方が結婚による幸福感の差が大きくなっています。

図表：性別、結婚別の幸福感



既婚男性の暮らしの実感を見ると、未婚男性より、「必要な収入」や「精神的なゆとり」、「生きがい」があり、「仕事」や「余暇」が充実し、「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

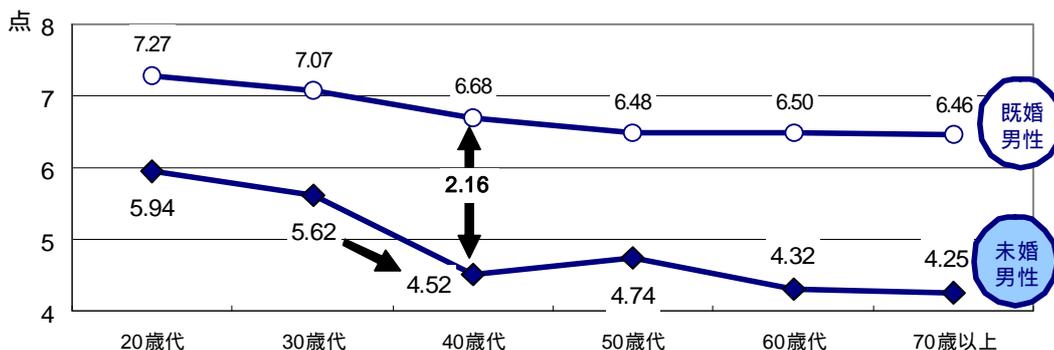
図表：男性、結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

男性の既婚、未婚について、年代別に幸福感をみたところ、いずれの年代も未婚より既婚の方が幸福感は高く、特に未婚は40歳代で大きく低下しており、既婚と未婚における幸福感の差は40歳代が最も大きくなっています。

図表：男性、結婚別、年代別の幸福感



幸福度が大きく下がる未婚男性の40歳代の暮らしの実感を見ると、未婚男性の30歳代より、「精神的なゆとり」、「生きがい」、「必要な収入」がなく、「家族との関係」、「職場での人間関係」が良好でないと感じ、「余暇は充実」していないなどと感じています。

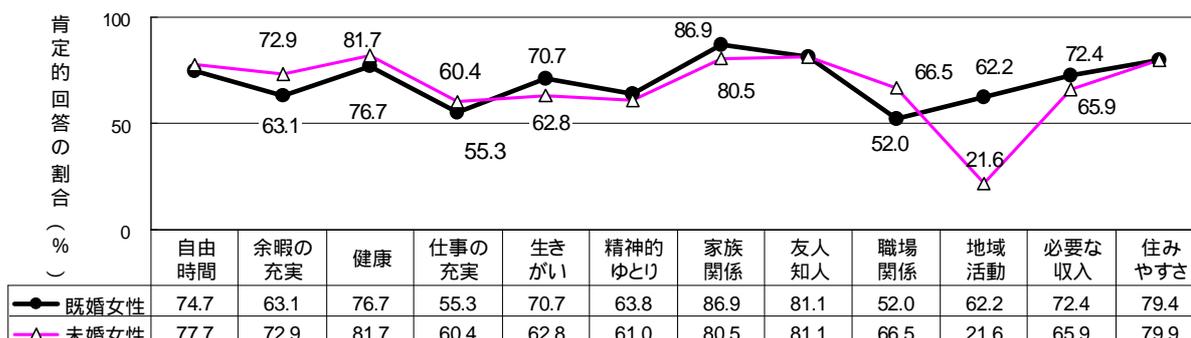
図表：未婚の男性、30歳代及び40歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

既婚女性の暮らしの実感を見ると、未婚女性より、「余暇は充実」していないものの、「ご近所付き合いや地域活動」をしており、「生きがい」や「必要な収入」があり、「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

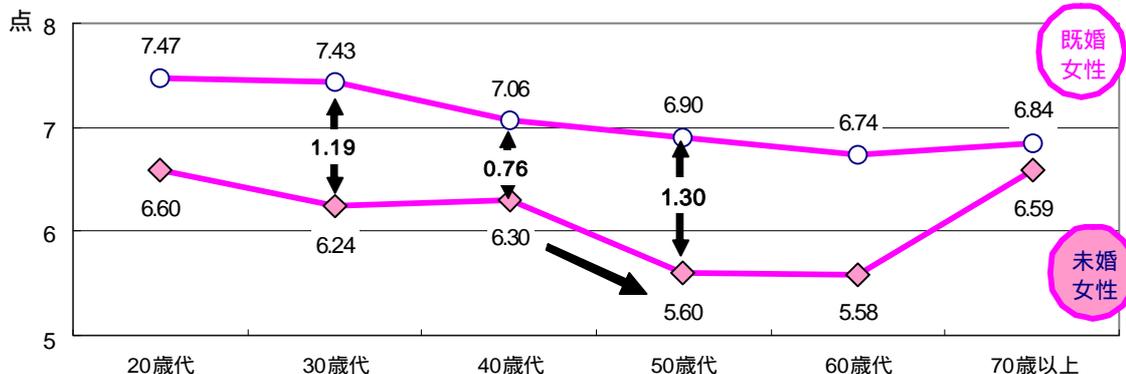
図表：女性、結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

女性の既婚、未婚について、年代別に幸福度をみたら、いずれの年代も未婚より既婚の方が幸福度は高く、女性の既婚と未婚における幸福度の差は40歳代で一旦縮小しますが、未婚が50歳代(n=27)で大きく低下しており、50歳代が最も大きくなっています。

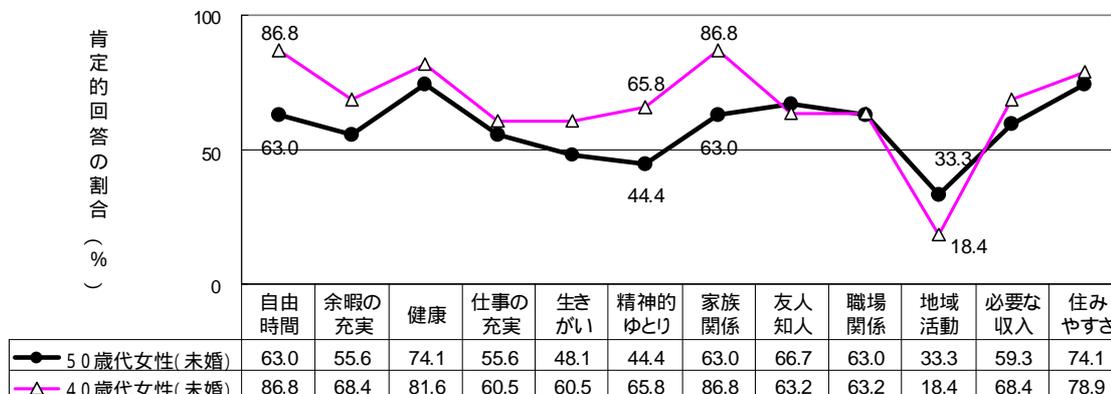
図表：女性、結婚別、年代別の幸福度



70歳以上も既婚の方が平均値は高いが統計的に有意な差はみられません。

幸福感が大きく下がる未婚女性の50歳代(n=27)の暮らしの実感を見ると、未婚女性の40歳代(n=38)より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じていますが、「自由な時間」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」は良好でないなどと感じています。

図表：未婚の女性、40歳代及び50歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

男女とも、既婚は未婚より幸福感は高く、男性はその傾向が強くなっています。

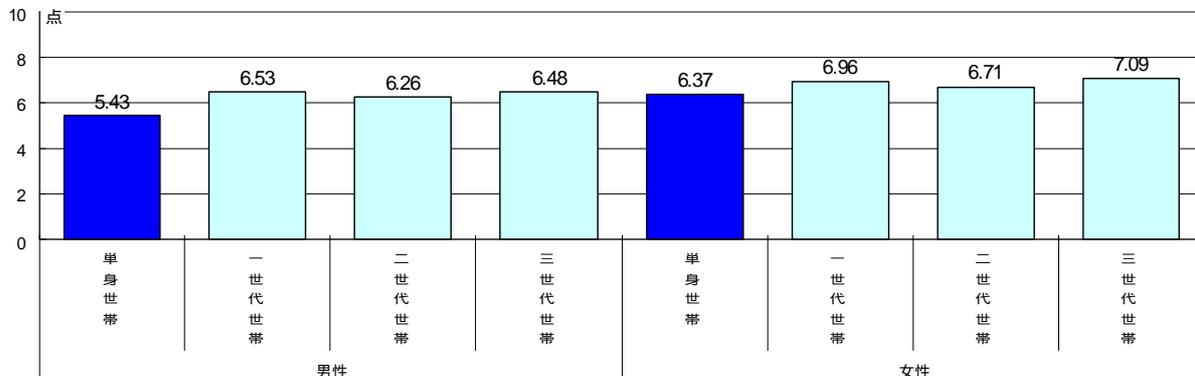
未婚男性は40歳代で幸福感が大きく低下し、未婚男性の30歳代より、「精神的なゆとり」、「生きがい」、「必要な収入」がなく、「家族との関係」、「職場での人間関係」が良好でないと感じ、「余暇は充実」していないなどと感じています。

未婚女性は50歳代で幸福感が大きく低下し、未婚女性の40歳代より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じていますが、「自由な時間」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」は良好でないなどと感じています。

2(4) 性別×世帯構成別

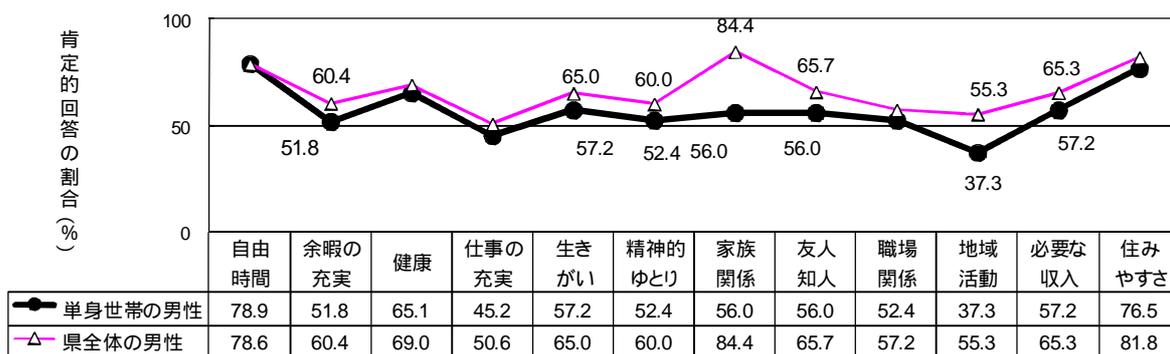
性別、世帯構成別に幸福感を見たところ、男女とも、単身世帯の幸福感が低く、特に男性の単身世帯が低くなっています。

図表：性別、世帯構成別の幸福感



男性の単身世帯の暮らしの実感を見ると、県全体の男性平均より、「家族との関係」が良好でなく、「ご近所付き合いや地域地域での活動」をしていないと感じ、さらに「必要な収入」、「精神的なゆとり」、「生きがい」がなく、「余暇は充実」していないなどと感じています。

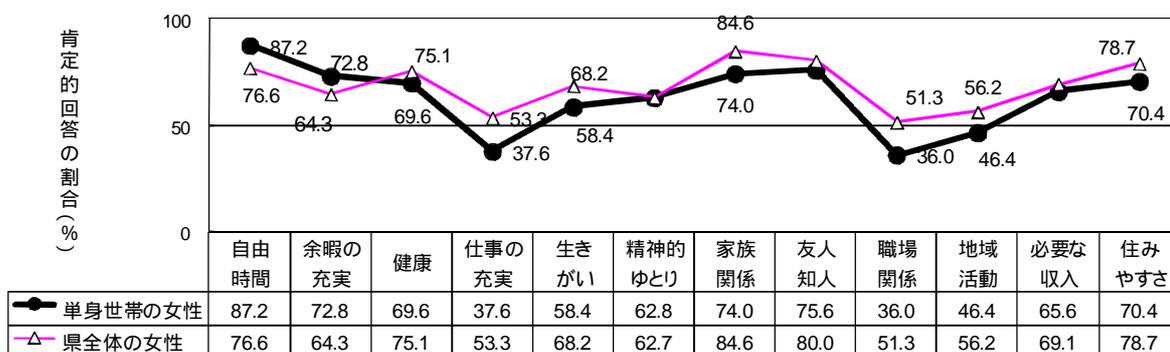
図表：男性の単身世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

女性の単身世帯の暮らしの実感を見ると、県全体の女性平均より、「自由な時間」はあり、「余暇は充実」していると感じる一方、「仕事は充実」しておらず、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でなく、「生きがい」がないなどと感じています。

図表：女性の単身世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

男女とも単身世帯が他の世帯より幸福感が低く、特に男性の単身世帯が低くなっています。

男性の単身世帯の暮らしの実感を見ると、県全体の男性平均より、「家族との関係」が良好でなく、「ご近所付き合いや地域地域での活動」をしていないと感じ、さらに「必要な収入」、「精神的なゆとり」、「生きがい」がなく、「余暇は充実」していないなどと感じています。

女性の単身世帯の暮らしの実感を見ると、県全体の女性平均より、「自由な時間」はあり、「余暇は充実」していると感じる一方、「仕事は充実」しておらず、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でなく、「生きがい」がないなどと感じています。

2(5) 性別×世帯収入別

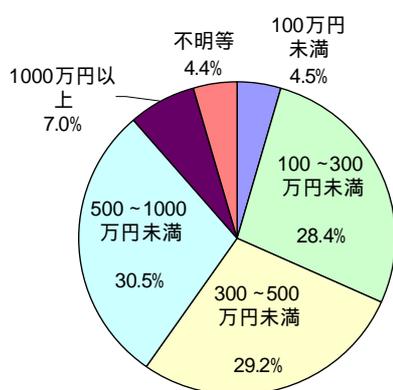
性別、世帯収入別の幸福感を見たところ、男女とも世帯収入が高い方が幸福感が高く、また世帯収入が同じ場合は女性の方が男性より幸福感が高くなっています。

特に、男性の世帯収入が100万円未満の層は低くなっています。

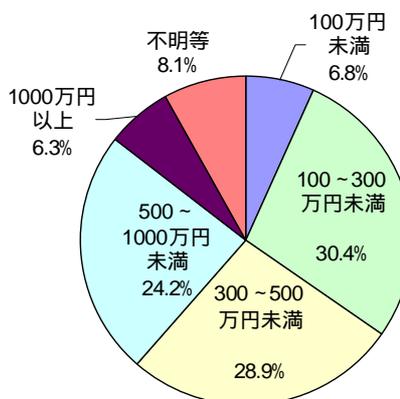
図表：性別、世帯収入別の幸福感



図表：男性2675名の世帯収入別構成比

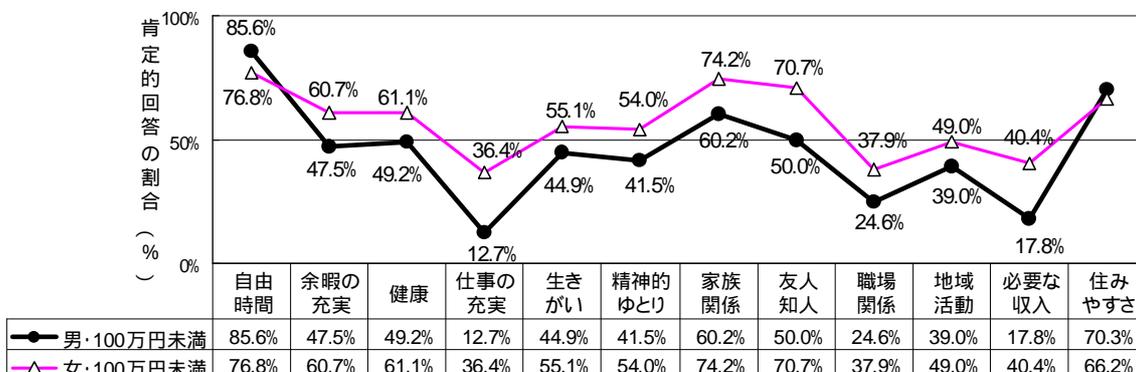


図表：女性2931名の世帯収入別構成比



男性の世帯収入が 100 万円未満の層の暮らしの実感をみると、女性の同じ世帯収入の層より「仕事は充実」しておらず、「必要な収入」がないなどと感じています。

図表：性別、世帯収入別（100万円未満）の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

男女とも、世帯収入が高い方が幸福感が高くなっています。

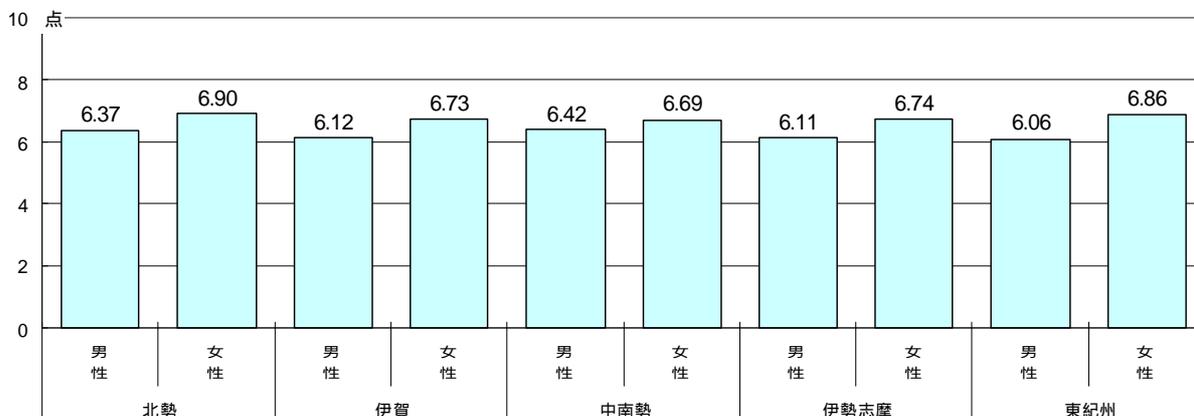
世帯収入が同じ場合には、男性の方が幸福感が低くなっており、特に男性の100万円未満は低くなっています。

男性の世帯収入が100万円未満の層の暮らしの実感をみると、女性の同じ世帯収入の層より「仕事は充実」しておらず、「必要な収入」がないなどと感じています。

2(6) 性別×地域別

性別、地域別の幸福度を見たところ、いずれの地域でも女性が男性より幸福度が高くなっています。なお、伊勢志摩地域の男性が県全体の男性平均の幸福度よりも低くなっています。

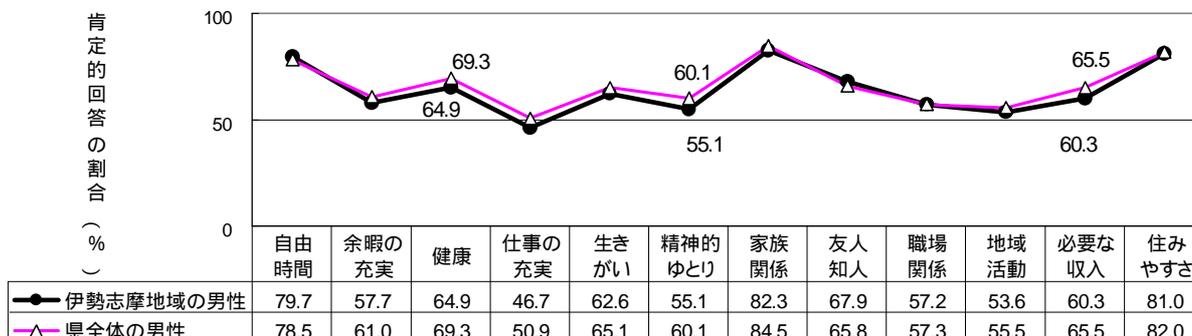
図表：性別、地域別の幸福度



伊賀地域、東紀州地域の男性の平均値も低いですが、県全体の男性平均との間に統計的に有意な差は認められない。

伊勢志摩地域の男性の暮らしの実感を見ると、県全体の男性平均より、「健康」であると感じていないほか、「必要な収入」、「精神的なゆとり」がないなどと感じています。

図表：伊勢志摩地域の男性の幸福度



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

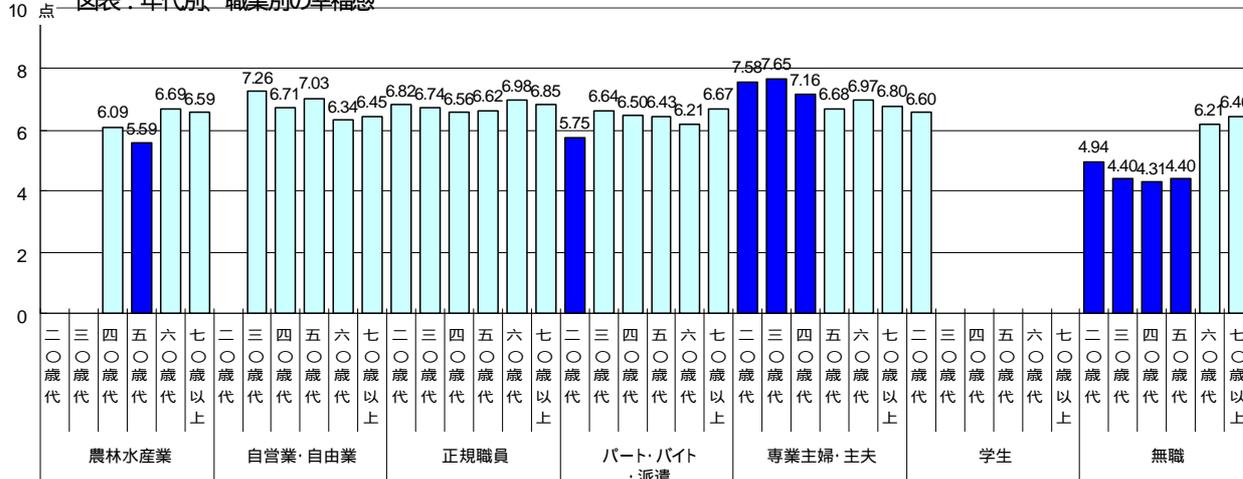
いずれの地域でも女性が男性より幸福度が高くなっています。なお、伊勢志摩地域の男性が県全体の男性平均より幸福度が低く、「健康」であると感じていないほか、「必要な収入」、「精神的なゆとり」がないなどと感じています。

2(7) 年代別×職業別

第1章 10ページ関係

年代別、職業別の幸福度を見たところ、20歳代から40歳代までの専業主婦・主夫が高く、無職の20歳代(n=17)、30歳代(n=20)、40歳代(n=13)、50歳代(n=45)、20歳代のパート・バイト・派遣、及び50歳代の農林水産業(n=29)の幸福度が低くなっています。

図表：年代別、職業別の幸福度

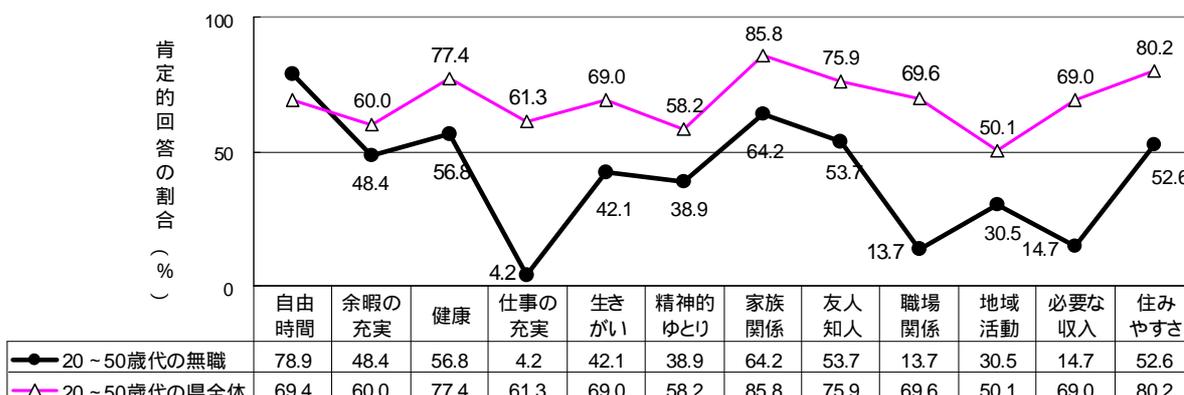


サンプル数10未満の属性区分については非表示とした。

20歳代から50歳代までの無職の暮らしの実感を見ると、20歳代から50歳代までの県平均と比べ、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」が良好でなく、「相談できる友人や知人」がいないほか、地域は「住みにくい」などと感じています。

なお、20歳代から50歳代までの結婚の状況を見ると、無職は県平均と比べ、未婚の割合が高くなっています。

図表：20歳代から50歳代までの暮らしの実感



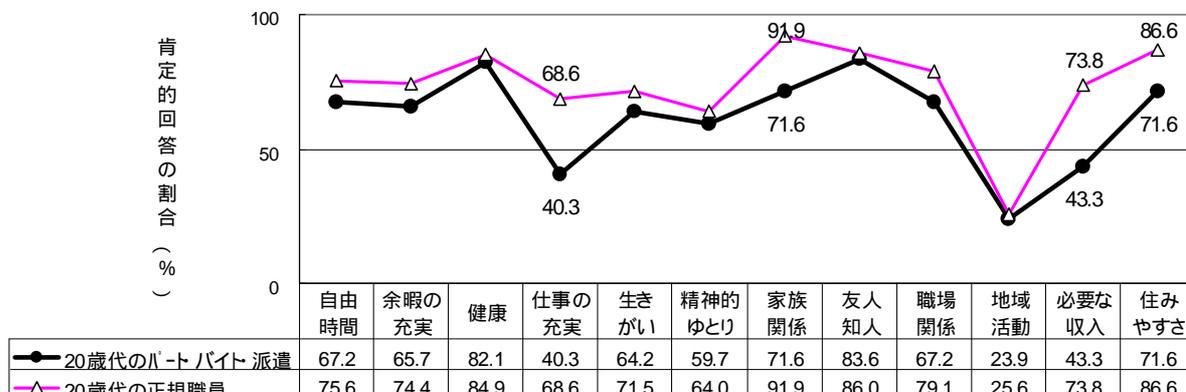
折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

図表：20歳代から50歳代までの結婚の割合



20歳代のパート・バイト・派遣の暮らしの実感を見ると、20歳代の正規職員と比べ、「仕事は充実」しておらず、「必要な収入」はなく、また「家族との関係」は良好でなく、地域は「住みにくい」などと感じています。

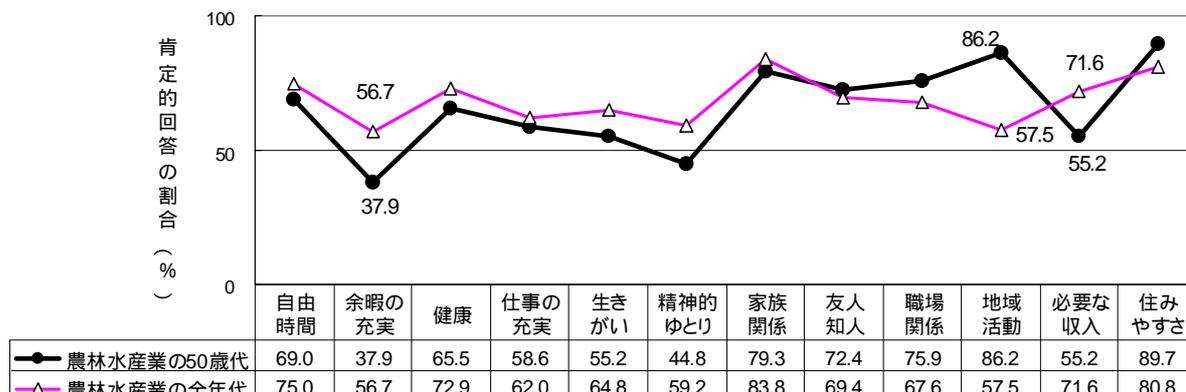
図表：20歳代のパート・バイト・派遣と正規職員の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

50歳代の農林水産業(n=29)の暮らしの実感を見ると、県平均と比べ、「ご近所付き合いや地域での活動」をしている一方、「必要な収入」がなく、「余暇は充実」していないなどと感じています。

図表：農林水産業の50歳代と全年代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

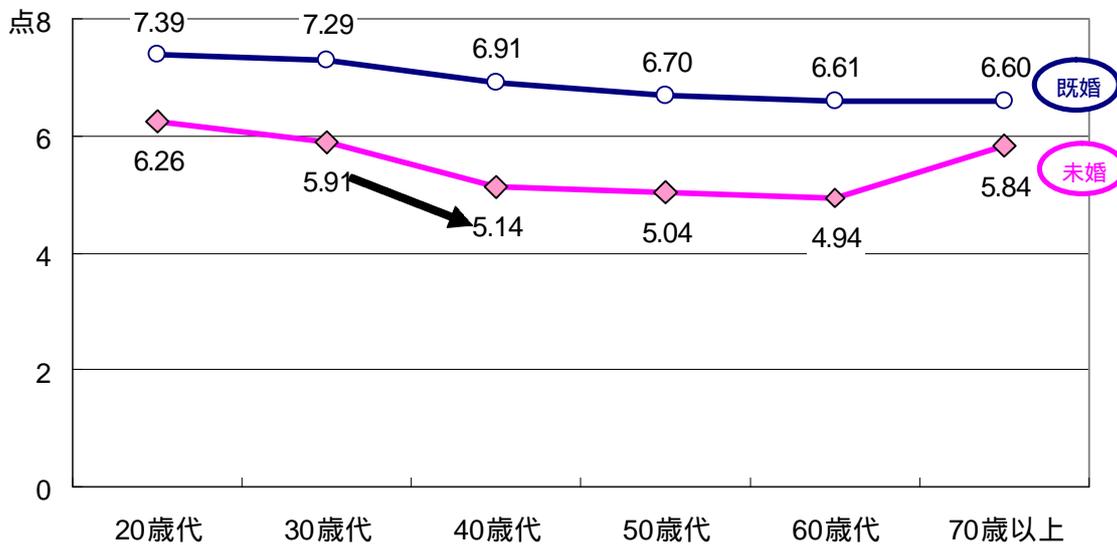
【要点】

- 20歳代から40歳代までの専業主婦・主夫の幸福感が高くなっています。
- 50歳代までの無職は幸福感が低く、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」が良好でなく、「相談できる友人や知人」がいないほか、地域は「住みにくい」などと感じています。
- 20歳代のパート・バイト・派遣の幸福感は低く、正規職員より「仕事は充実」しておらず、「必要な収入」はなく、また「家族との関係」は良好でなく、地域は「住みにくい」などと感じています。
- 50歳代の農林水産業は幸福感が低く、「ご近所付き合いや地域での活動」をしている一方、「必要な収入」がなく、「余暇は充実」していないなどと感じています。

2(8) 年代別×結婚別

年代別、結婚別の幸福感をみたところ、全ての年代で既婚は未婚より幸福感が高い傾向にあります。未婚では40歳代にかけて大きく低下しています。

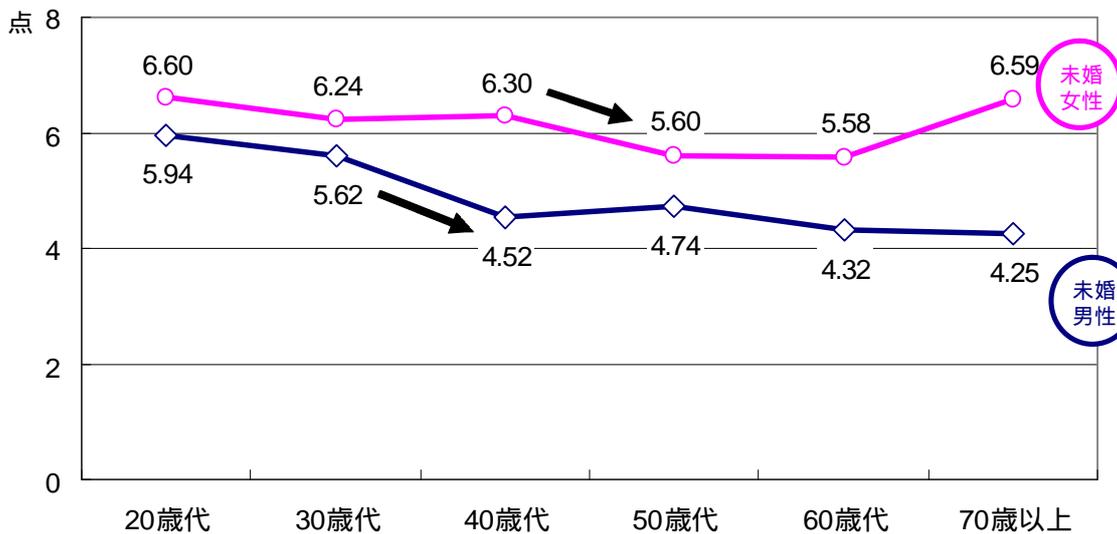
図表：年代別、結婚別の幸福感



70歳代以上の既婚と未婚の差については統計的に有意とは言えません。

未婚について、年代別と性別で幸福感をみたところ、男性は40歳代で、未婚の女性は50歳代で、それぞれ幸福感の低下が見られます。

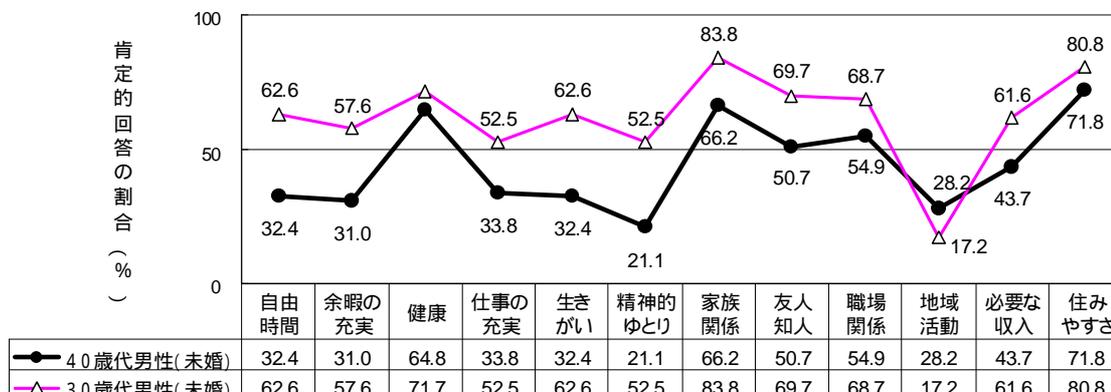
図表：未婚の年代別、男女別の幸福感



女性の70歳以上は60歳代より高くなっていますが、その差は統計的に有意とは言えません。

幸福感が大きく下がる未婚男性の40歳代の暮らしの実感を見ると、未婚男性の30歳代より、「精神的なゆとり」、「生きがい」、「必要な収入」がなく、「家族との関係」、「職場での人間関係」が良好でないと感じ、「余暇は充実」していないなどと感じています。

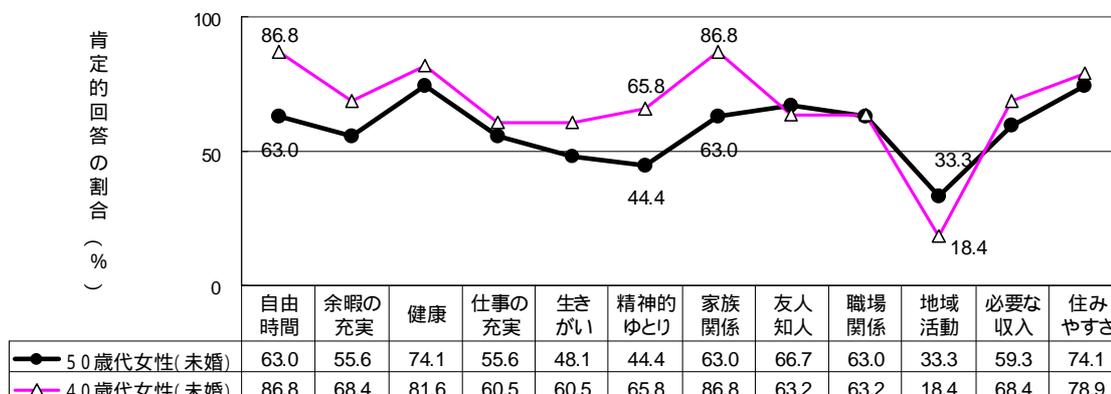
図表：未婚の男性、30歳代及び40歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

幸福感が大きく下がる未婚女性の50歳代(n=27)の暮らしの実感を見ると、未婚女性の40歳代(n=38)より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じていますが、「自由な時間」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」は良好でないなどと感じています。

図表：未婚の女性、40歳代及び50歳代の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

各年代とも未婚より既婚の方が幸福感が高くなっています。

未婚の場合、男性は40歳代で幸福感が大きく低下し、未婚男性の30歳代より、「精神的なゆとり」、「生きがい」、「必要な収入」がなく、「家族との関係」、「職場での人間関係」が良好でないと感じ、「余暇は充実」していないなどと感じています。

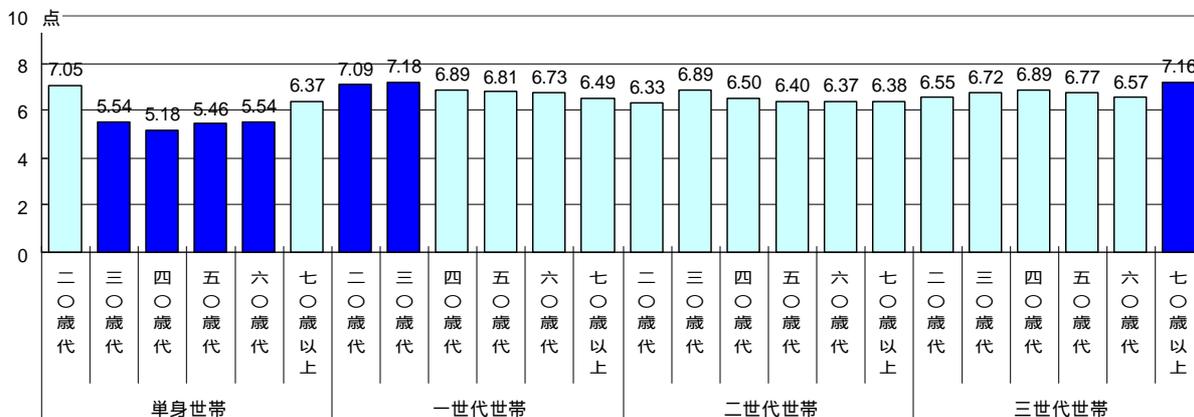
未婚女性については、50歳代で幸福感が大きく低下し、未婚女性の40歳代より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じていますが、「自由な時間」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」は良好でないなどと感じています。

2(9) 年代別×世帯構成別

第1章 11ページ関係

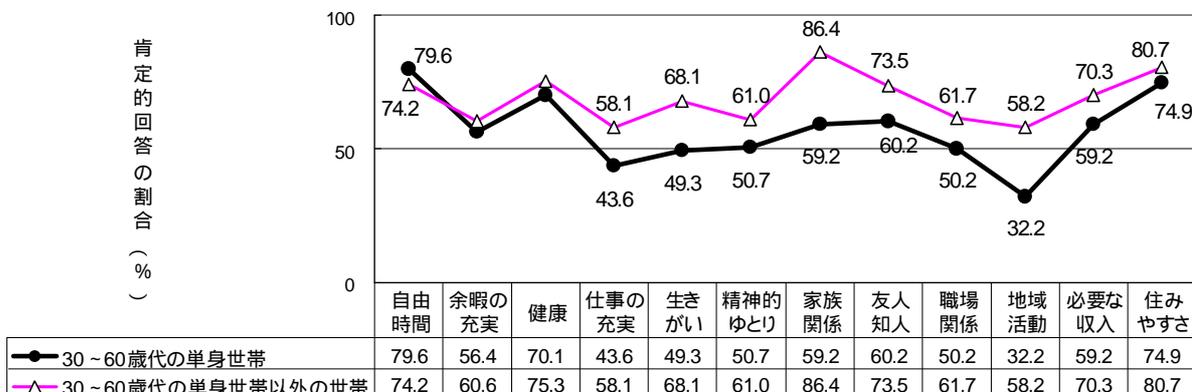
年代別、世帯構成別の幸福度を見たところ、30歳代から60歳代までの単身世帯の幸福度が低くなっています。また、20歳代から30歳代の一世代世帯や70歳以上の三世代世帯などが高くなっています。

図表：年代別、世帯構成別の幸福度



30歳代から60歳代の単身世帯の暮らしの実感を見ると、同年代の単身世帯以外の世帯よりも、「自由な時間」はあるものの、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でなく、「必要な収入」や「生きがい」がなく、「近所付き合いや地域での活動」をしていないなどと感じています。

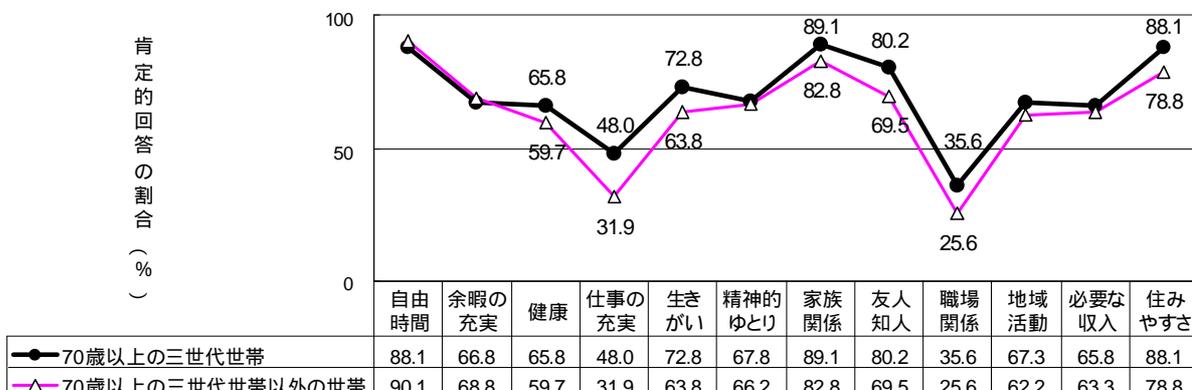
図表：30歳代から60歳代の単身世帯とそれ以外の世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

70歳以上の三世帯世帯の暮らしの実感を見たところ、三世帯世帯以外の世帯より、「健康」で地域は「住みやすく」、「家族との関係」が良好で、「相談できる友人や知人」がおり、「生きがい」があるなどと感じています。

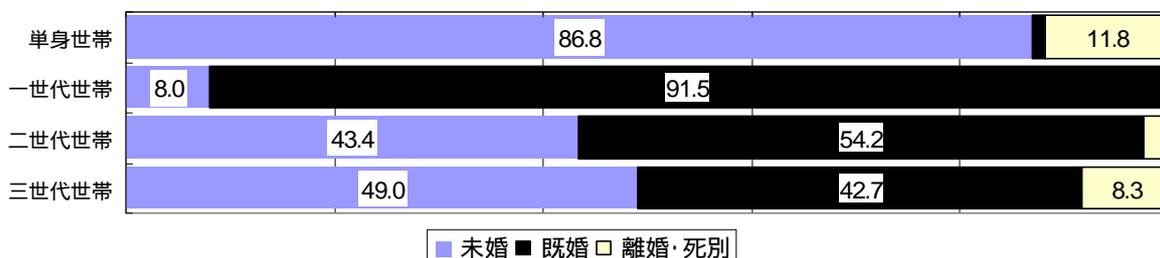
図表：70歳以上の三世帯世帯とそれ以外世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

20歳代から30歳代について、世帯構成毎に結婚別の割合を見ると、幸福度の高い一世代世帯は既婚がほとんどを占めています。

図表：20歳代から30歳代の一世代世帯とそれ以外世帯の暮らしの実感



【要点】

30歳代から60歳代の単身世帯は幸福度が低く、単身世帯以外の世帯より「自由な時間」はあるものの、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でなく、「必要な収入」や「生きがい」がなく、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていないなどと感じています。

70歳以上の三世帯世帯の幸福度は高く、三世帯世帯以外の世帯より、「健康」で地域は「住みやすく」、「家族との関係」が良好で、「相談できる友人や知人」がおり、「生きがい」があるなどと感じています。

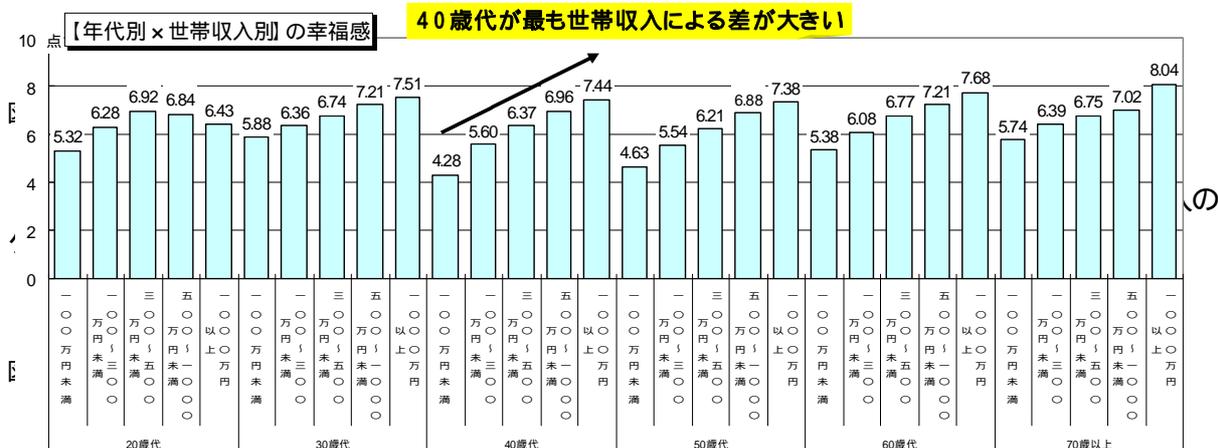
20歳代から30歳代の一世代世帯の幸福度は高くなっています。また、20～30歳代について、世帯構成毎に結婚別の割合を見ると、幸福度の高い一世代世帯はほとんど既婚が占めています。

2(10)年代別×世帯収入別

第1章 12ページ関係

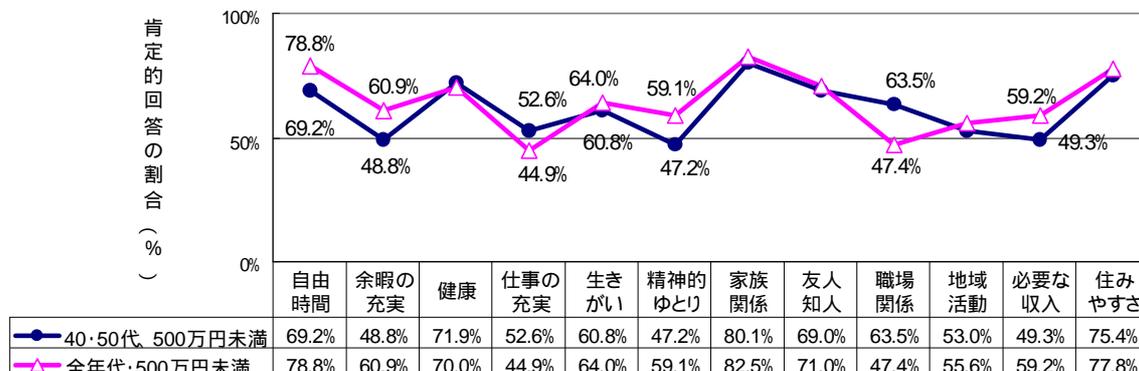
年代別の幸福度を世帯収入別に見たところ、40歳代、50歳代は世帯収入による幸福度の差が大きくなっています。

図表：年代別、世帯収入別の幸福度



世帯収入500万円未満における40歳代と50歳代の暮らしの実感は、同じ世帯収入の全世代より、「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「余暇は充実」していないなどを感じている一方、「仕事は充実」しており「職場での人間関係」は良好であるなどと感じています。

図表：年代別(40歳代・50歳代)世帯収入別(500万円未満)の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

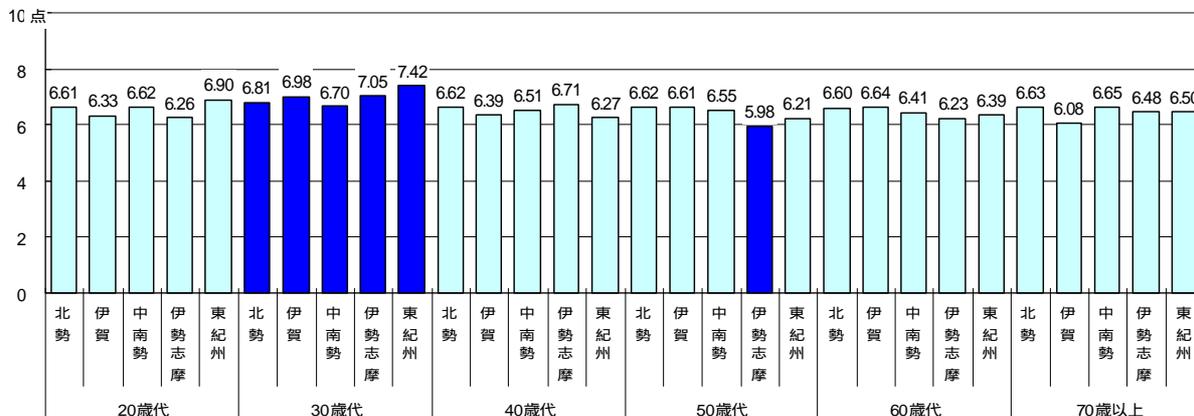
40歳代、50歳代は世帯収入による幸福度の差が大きくなっています。

また、世帯収入500万円未満における40代と50代の暮らしの実感は、同じ世帯収入の全世代より、「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「余暇は充実」していないなどを感じている一方、「仕事は充実」しており「職場での人間関係」は良好であるなどと感じています。

2(11)年代別×地域別

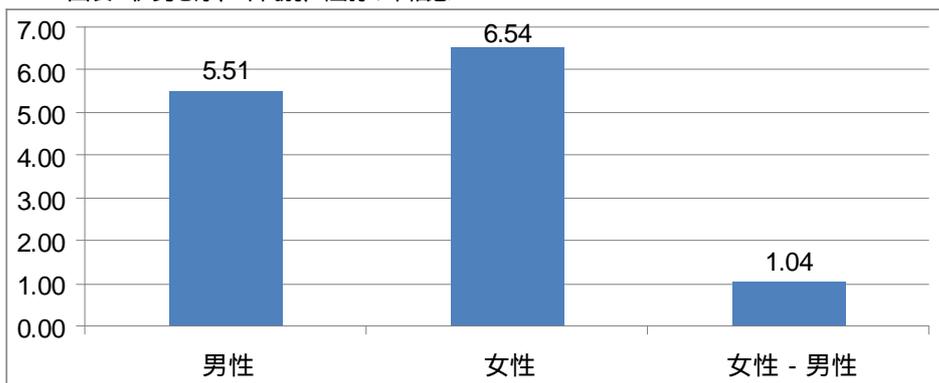
年代別、地域別の幸福度を見たところ、全地域とも30歳代が最も高くなっています。また、伊勢志摩地域の50歳代が県内で最も低くなっています。

図表：地域別、年代別の幸福度



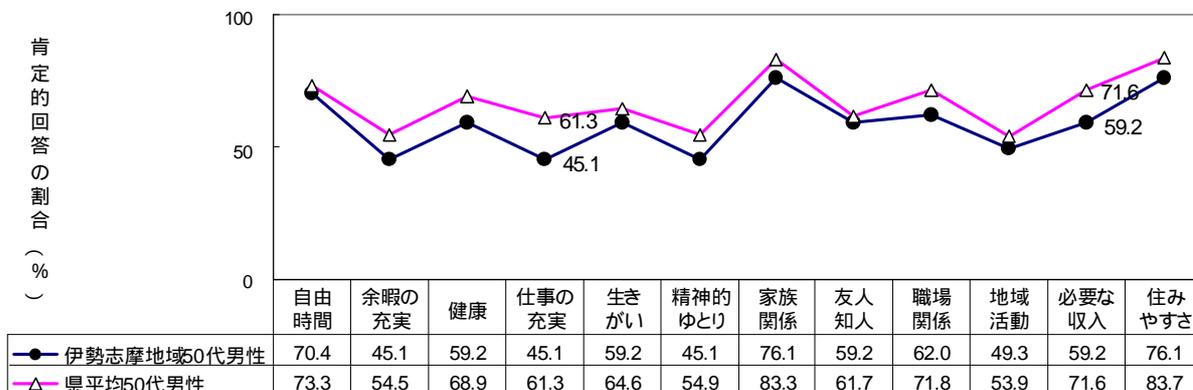
伊勢志摩地域の50歳代の幸福度を性別で見ると、男性が5.51、女性が6.54であり、性別による差が1.04と大きくなっています

図表：伊勢志摩、年代別、性別の幸福度



伊勢志摩地域の50歳代男性の暮らしの実感を見ると、50歳代男性の県平均より、「仕事は充実」しておらず、「必要な収入」がないなどと感じています。

図表：伊勢志摩、50歳代、男性の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

全地域とも、幸福感は30歳代が最も高くなっています。

地域別で見ると、伊勢志摩地域の50歳代が最も低くなっています。

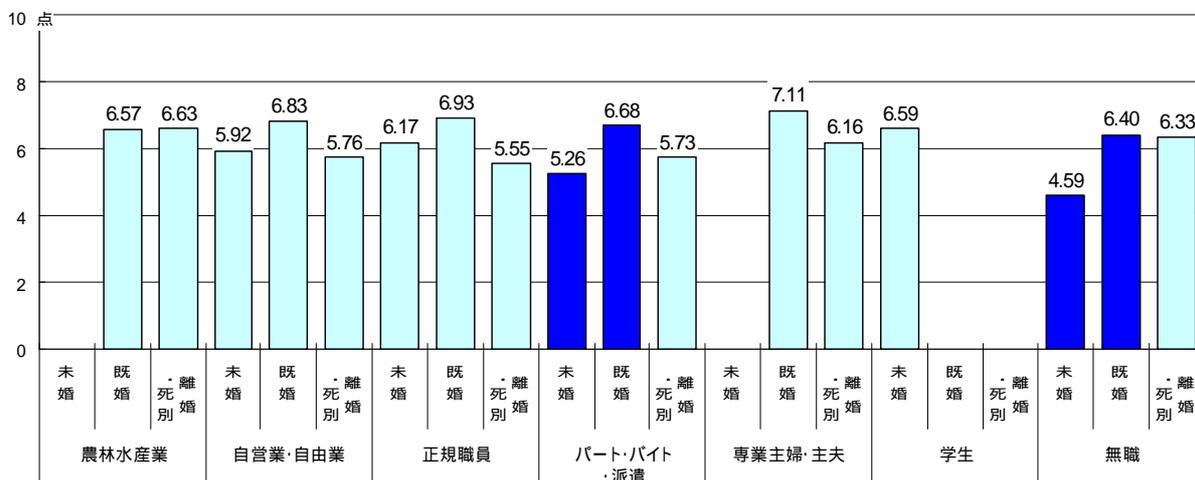
伊勢志摩地域の50歳代男性の暮らしの実感を見ると、50歳代男性の県平均より、「仕事は充実」しておらず、「必要な収入」がないなどと感じています。

2(12) 職業別×結婚別

第1章 13ページ関係

職業別、結婚別の幸福感について見たところ、いずれの職業も未婚が既婚より低く、特に、パート・バイト・派遣及び無職で差が大きくなっています。

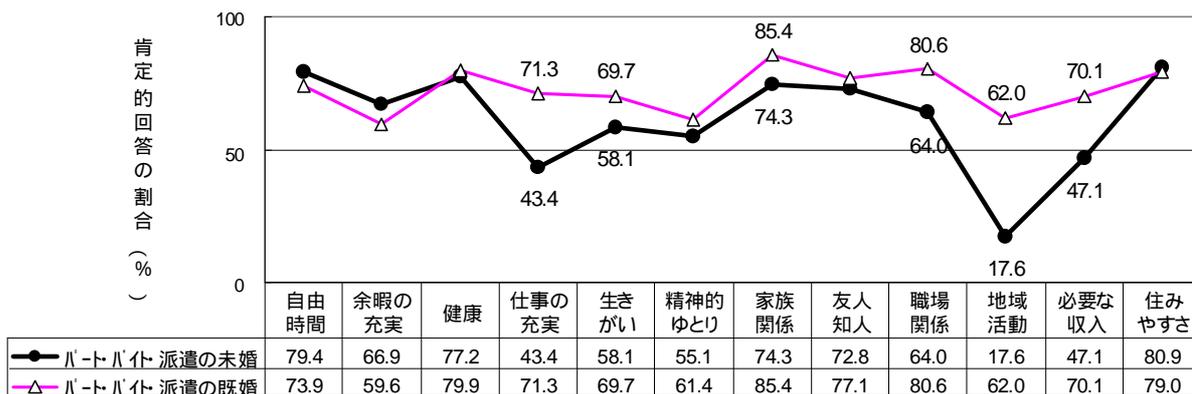
図表：職業別、結婚別の幸福感



未婚の農林水産業 (n=7)、専業主婦・主婦(n=3)及び学生の既婚(n=1)は非表示とした。
農林水産業の離婚・死別 (n=16) は既婚より高いものの、統計的に有意な差は認められない。

未婚のパート・バイト・派遣の暮らしの実感を見ると、既婚より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしておらず、「必要な収入」や「生きがい」がなく、さらに「家族との関係」や「職場での人間関係」は良好でなく、「仕事は充実」していないなど感じています。

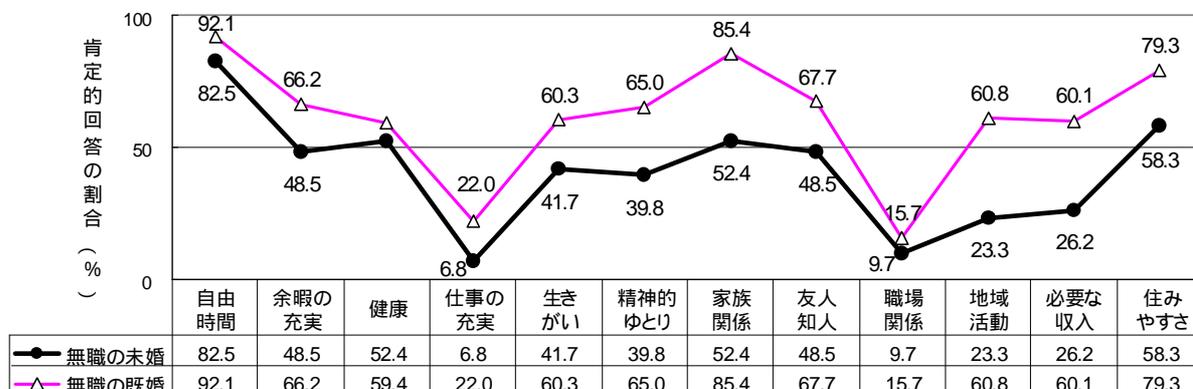
図表：パート・バイト・派遣の結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

無職の未婚の暮らしの実感を見ると、既婚より、「家族との関係」は良好でなく、「ご近所付き合いや地域での活動」をしておらず、また「必要な収入」や「精神的なゆとり」、「生きがい」がなく、地域は「住みにくい」と感じています。

図表：無職の結婚別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

いずれの職業においても、未婚は既婚より幸福感が低く、中でも、パート・バイト・派遣及び無職の未婚が低くなっています。

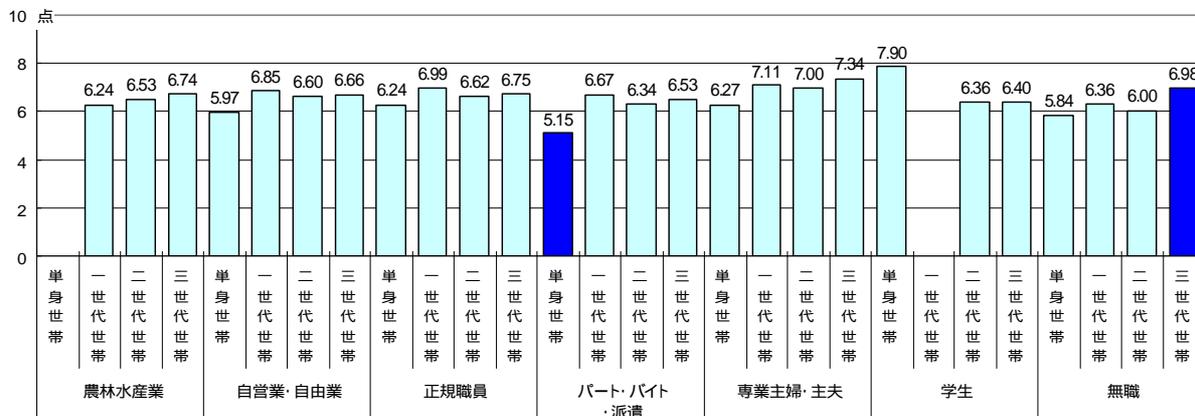
未婚のパート・バイト・派遣は、既婚より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしておらず、「必要な収入」や「生きがい」がなく、さらに「家族との関係」や「職場での人間関係」は良好でなく、「仕事は充実」していないなど感じています。

無職の未婚は、既婚より、「家族との関係」は良好でなく、「ご近所付き合いや地域での活動」をしておらず、また「必要な収入」や「精神的なゆとり」、「生きがい」がなく、地域は「住みにくい」と感じています。

2(13) 職業別×世帯構成別

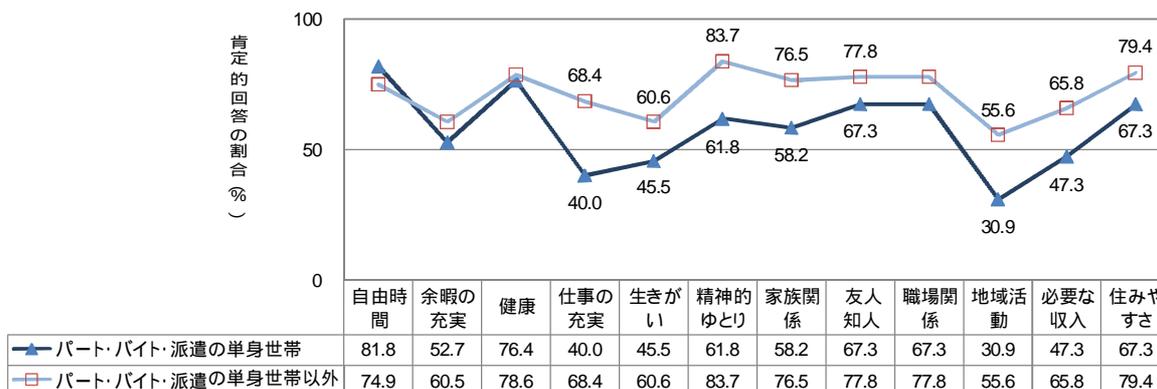
職業別、世帯構成別の幸福度をみると、特に単身世帯のパート・バイト・派遣が低くなっています。

図表：職業別、世帯構成別の幸福度



パート・バイト・派遣の単身世帯以外の暮らしの実感をみると、パート・バイト・派遣の単身世帯より、「仕事が充実」し、「生きがい」や「精神的ゆとり」がある、など感じています。

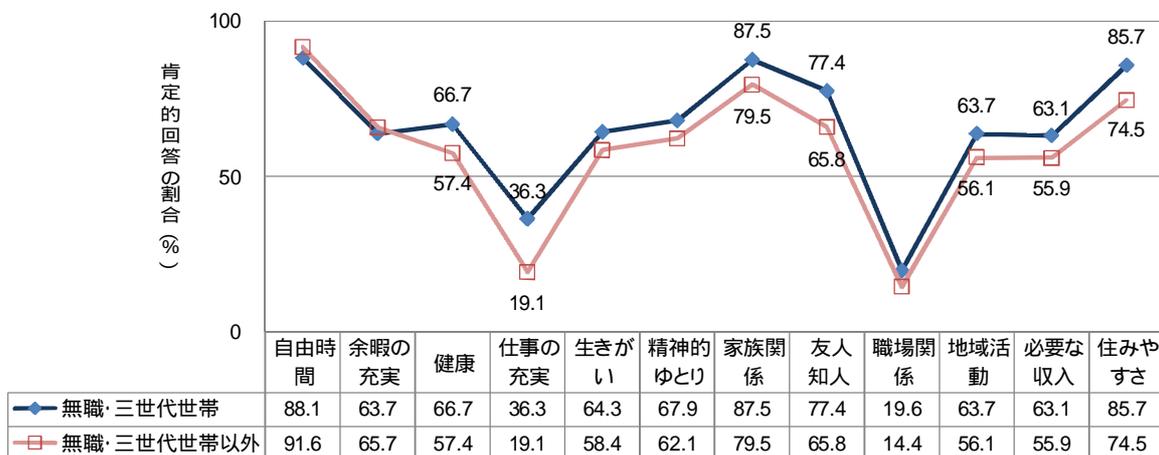
図表：パート・バイト・派遣、性別、世帯構成別の幸福度



折れ線グラフの中に数字のあるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

無職の三世代世帯の暮らしの実感をみると、無職の三世代世帯以外より、「健康」であり、「家族との関係」は良好で、「相談できる友人や知人」がいる、などと感じています。

図表：無職、三世代世帯とそれ以外世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字のあるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

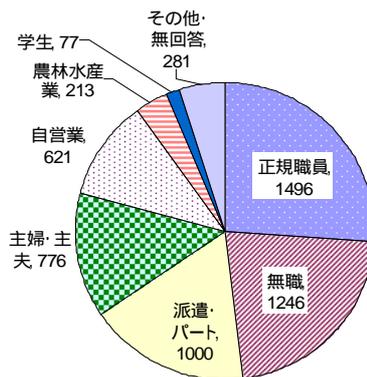
【要点】

パート・バイト・派遣の単身世帯以外の暮らしの実感をみると、パート・バイト・派遣の単身世帯より、「仕事が充実」しており、「生きがい」があると感じています。

無職の三世代世帯の暮らしの実感をみると、無職の三世代世帯以外より、「健康」であると感じ、「家族との関係」は良好で「相談できる友人や知人」がいると感じています。

2(14) 職業別×世帯収入別

図表：職業別標本数

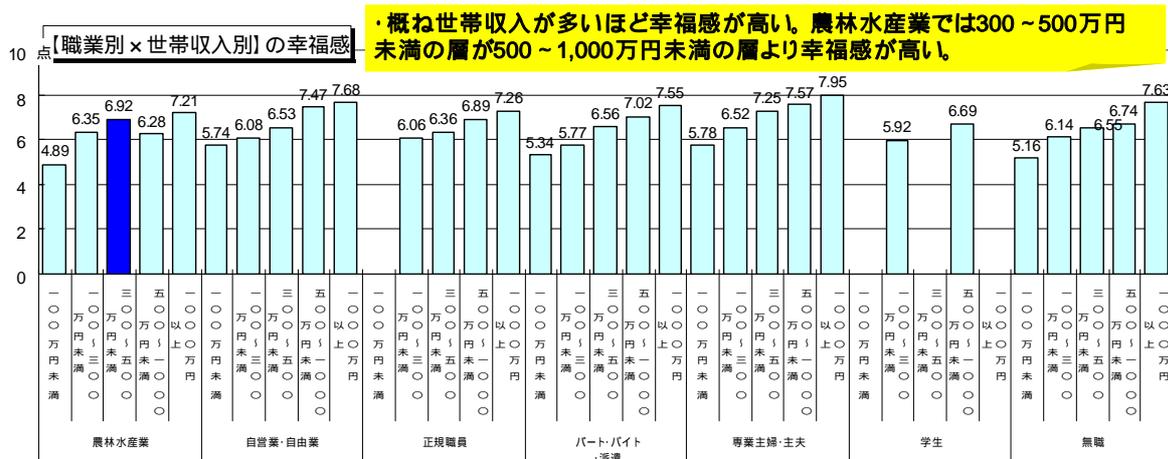


職業別、世帯収入別の幸福度を見ると、概ね世帯収入が多いほど幸福度が高くなっています。

ただし農林水産業では世帯収入が300～500万円未満の層が500～1,000万円未満の層より幸福度が高くなっています。

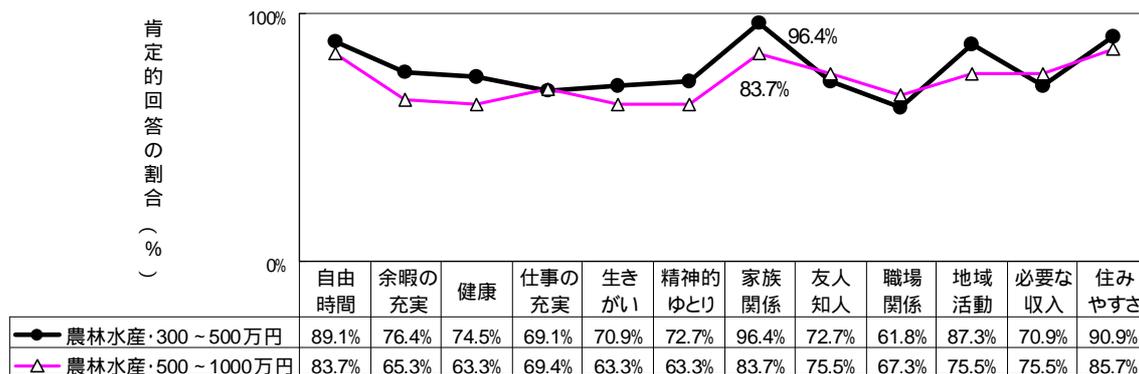
図表：職業別、世帯収入別の幸福度

サンプル数(n)が10未満の属性については、幸福度の平均値のグラフを非表示としています。



農林水産業における世帯収入が300～500万円未満の層の暮らしの実感を見ると、同じ農林水産業の500～1000万円未満の層より「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

図表：職業別（農林水産業）世帯収入別（300～500万円未満・500～1000万円未満）の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

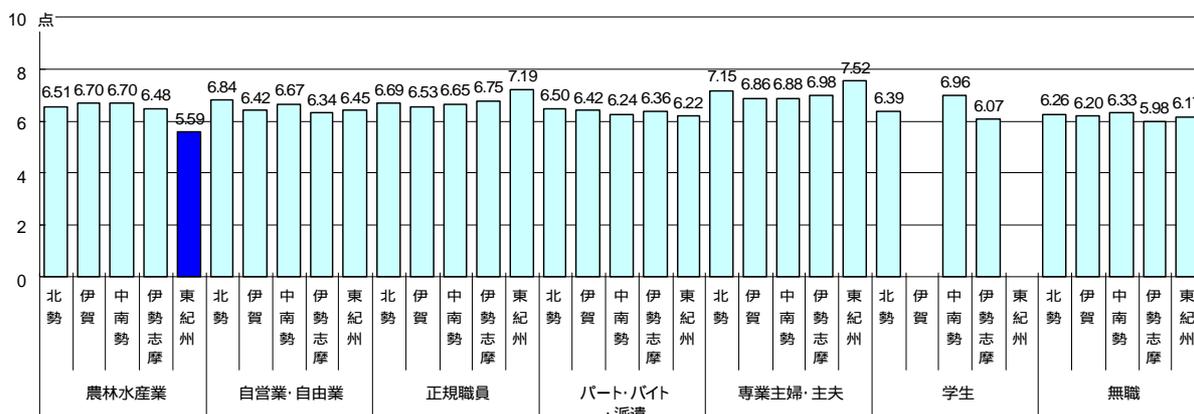
【要点】

職業別、世帯収入別の幸福度を見ると、概ね世帯収入が多いほど幸福度が高くなっています。その中で、農林水産業では、世帯収入が300～500万円未満の層の方が、より世帯収入の高い500～1000万円未満の層より幸福度が高く、暮らしの実感は「家族との関係」が良好であるなどと感じています。

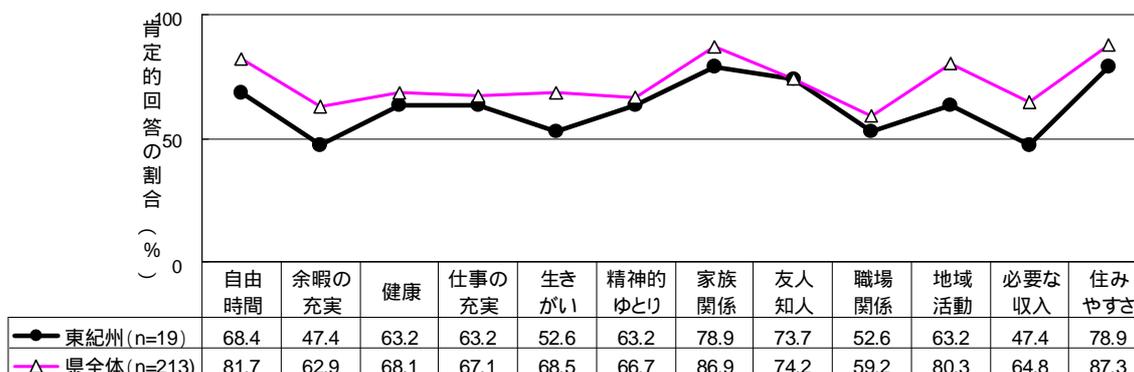
2(15) 職業別×地域別

職業別、地域別に幸福度をみたと、東紀州地域の農林水産業(n=17)が他の地域と比べて低くなっています。

図表：地域、職業別の幸福度



東紀州地域の農林水産業に従事する方の暮らしの実感をみると、県全体と比べ、統計的に有意な差は認められないものの、「生きがい」や「必要な収入」がないと感じており、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じていない傾向が見られます。



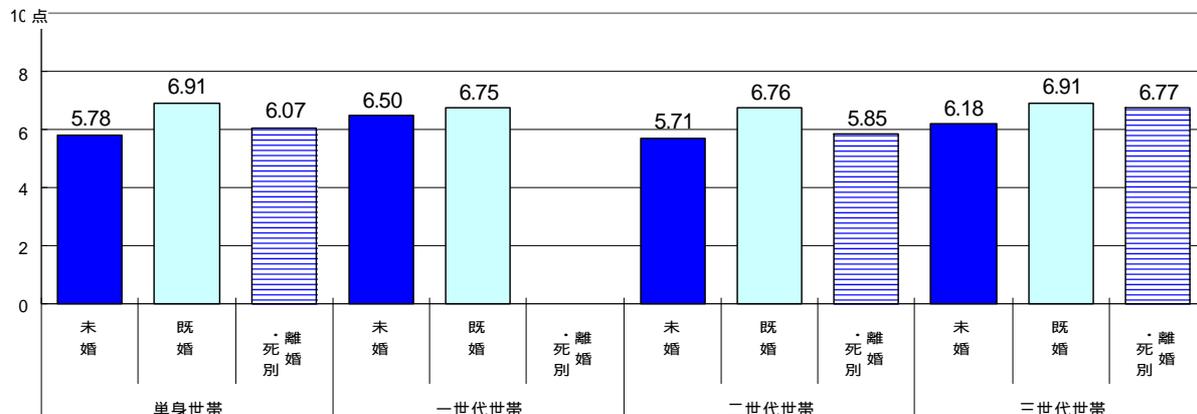
肯定的回答の割合について、12項目いずれも統計的に有意な差は認められない

【要点】
東紀州地域の農林水産業は他の地域の農林水産業と比べ、幸福度が低くなっています。

2(16) 結婚別×世帯構成別

結婚別・世帯構成別に幸福感を見たところ、二世世代世帯、三世世代世帯では未婚よりも既婚の方が高くなっています。

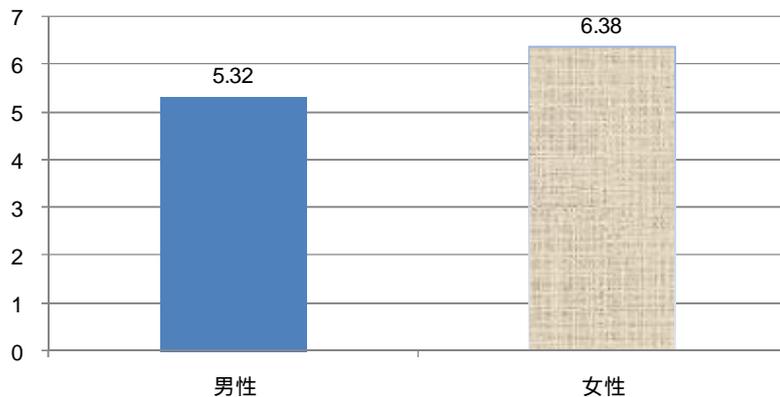
図表：結婚別、世帯構成別の幸福感



一世代世帯において、未婚 n=21>と既婚の間で統計的に優位な差は認められません。

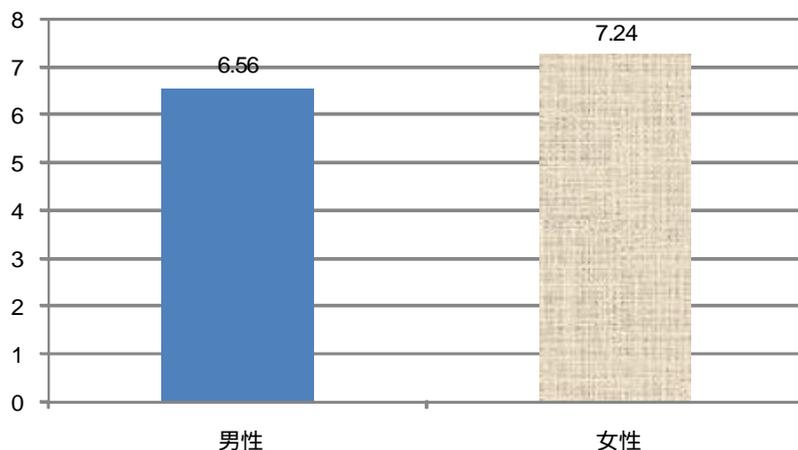
単身世帯の未婚の男女別を見ると、女性より男性の方が幸福感は低くなっています。

図表：性別、結婚別、世帯構成別の幸福感



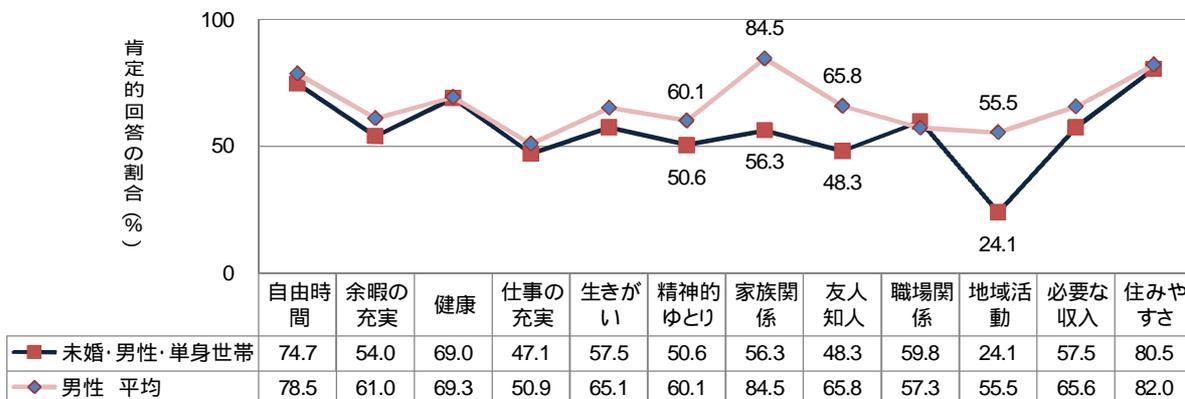
三世世代世帯の既婚の男女別を見ると、男性より女性の方が高くなっています。

図表：性別、結婚別、世帯構成別の幸福感



未婚男性の単身世帯の暮らしの実感を見ると、男性の平均より、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」が良好でなく、「相談できる友人や知人」がいないなどと感じています。

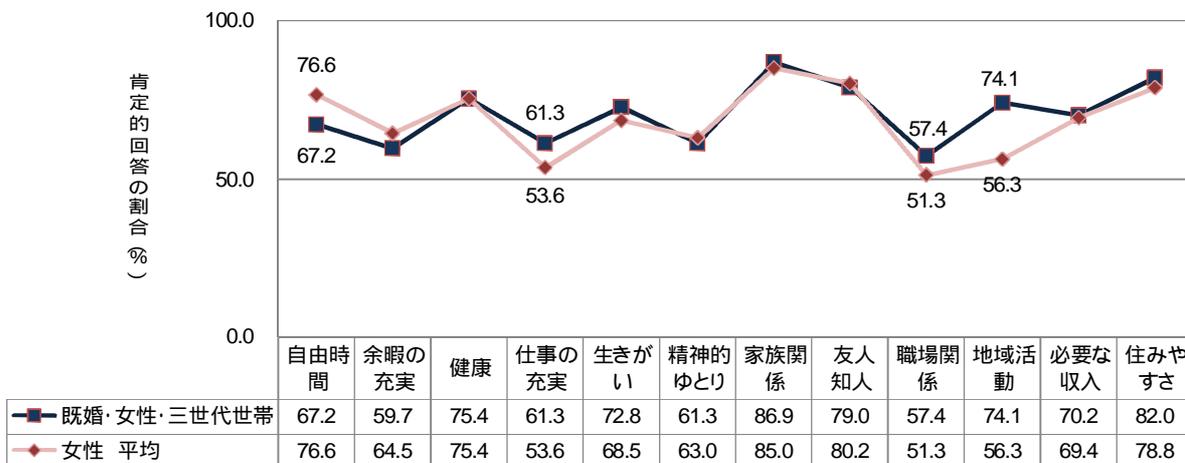
図表：未婚男性の単身世帯と男性平均の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字のあるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

既婚女性の三世帯世帯の暮らしの実感を見ると、女性の平均より、「自由な時間」がないと感じているものの、「仕事は充実」しており、「職場での人間関係」が良好であるなどと感じています。

図表：既婚女性の三世帯世帯と女性の平均の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字のあるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

結婚別・世帯構成別に幸福感を見ると、単身世帯、二世帯世帯、三世帯世帯では未婚よりも既婚の方が高くなっています。

未婚男性の単身世帯の暮らしの実感を見ると、男性の平均より、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」が良好でなく、「相談できる友人や知人」がいないなどと感じています。

既婚女性の三世帯世帯の暮らしの実感を見ると、女性の平均より、「自由な時間」がないと感じているものの、「仕事は充実」しており、「職場での人間関係」が良好であるなどと感じています。

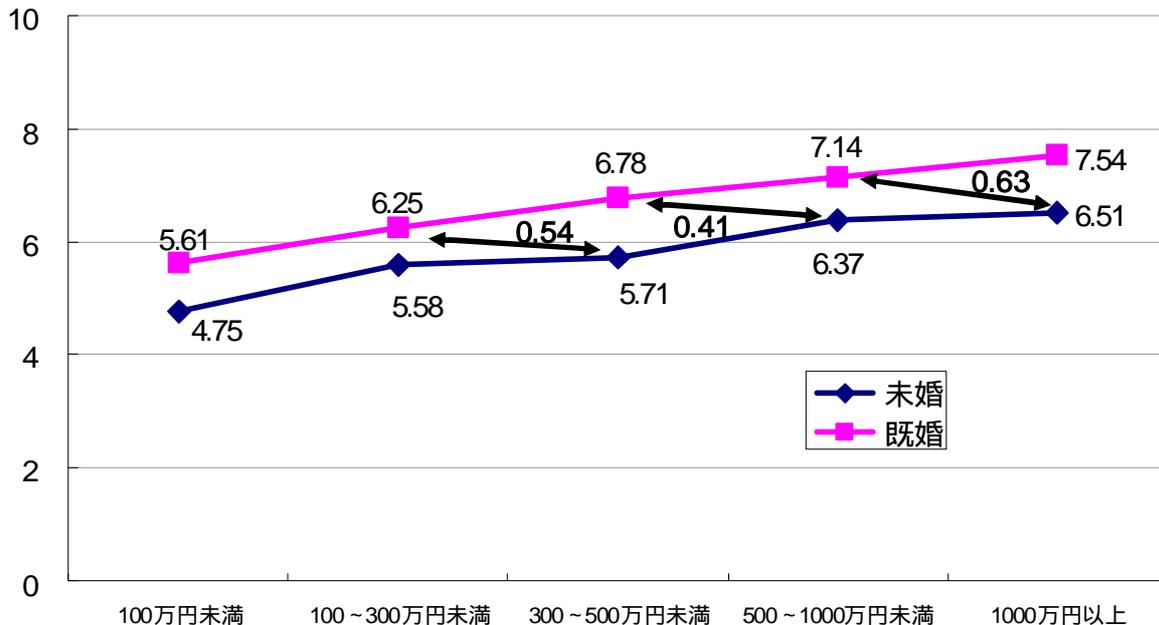
2(17) 結婚別×世帯収入別

第1章 14ページ関係

結婚別、世帯収入別の幸福度を見ると、世帯収入が同じ層では、既婚の方が未婚より幸福度が高くなっています。

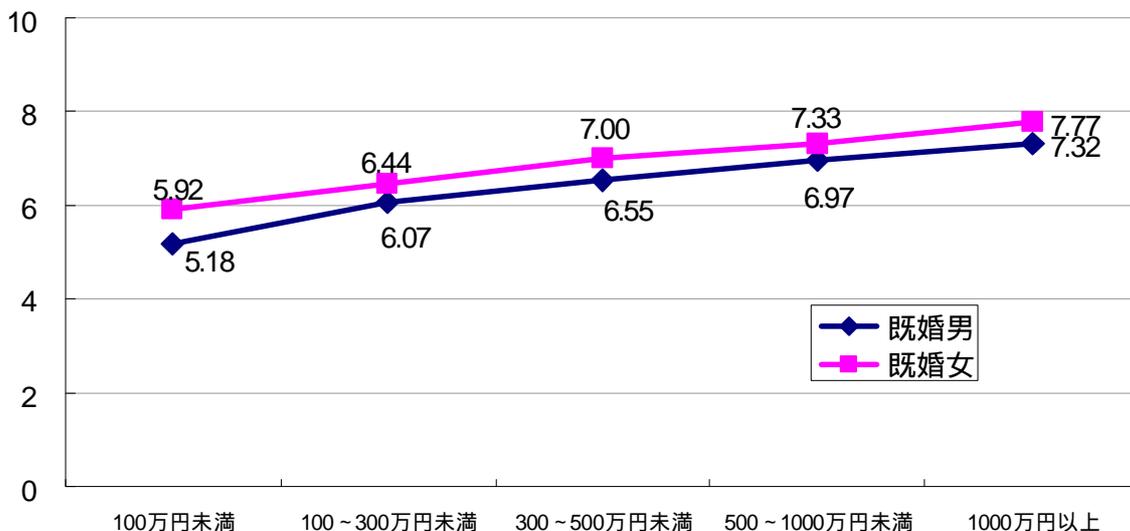
さらに、世帯収入が100万円以上の既婚は、世帯収入が一段階高い未婚の層と比べても幸福度が高くなっています。

図表：結婚別、世帯収入別の幸福度

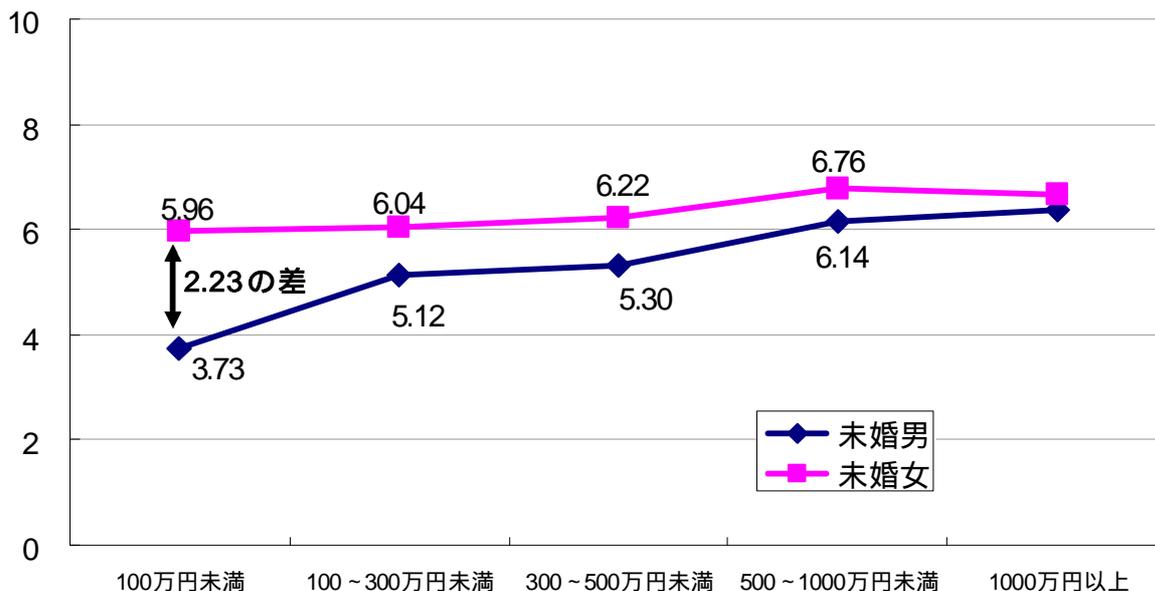


結婚別、世帯収入別の幸福度を、さらに男女別にみても、未婚は既婚よりも男女間の差が大きく、世帯収入が低くなるほどその差が広がる傾向が見られます。

図表：既婚、世帯収入別、性別の幸福度

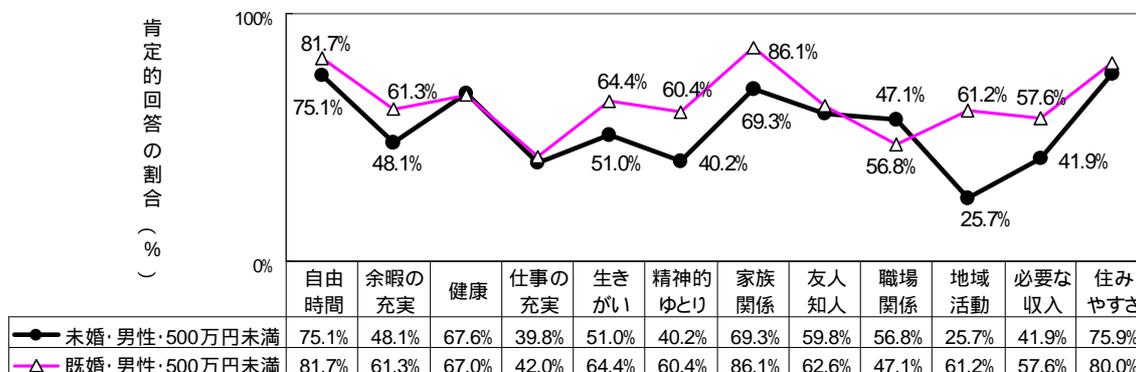


図表：未婚、世帯収入別、性別の幸福度



男性の世帯収入が500万円未満の層における既婚の暮らしの実感、未婚の場合より「精神的なゆとり」や「生きがい」、「必要な収入」があり、「余暇は充実」しており、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

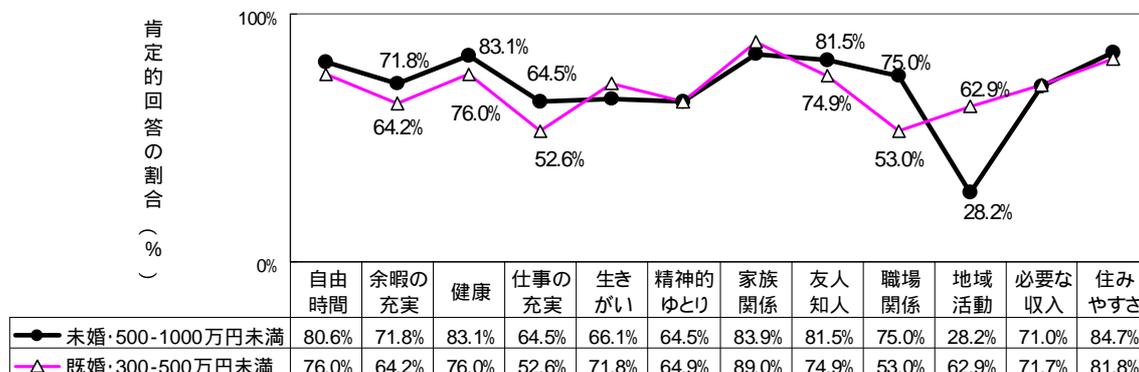
図表：結婚別、性別(男性)世帯収入別(500万円未満)の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

世帯収入が300～500万円未満の層における既婚の暮らしの実感は、世帯収入が500～1000万円未満の層における未婚の場合より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じていますが、「余暇」や「仕事」は充実しておらず、「職場での人間関係」は良好でないなどと感じています。

図表：結婚別、世帯収入別の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

世帯収入が同じ層では、既婚の方が未婚より幸福感が高くなっており、世帯収入が100万円以上の既婚は、世帯収入が一段階高い未婚の層と比べても幸福感が高くなっています。

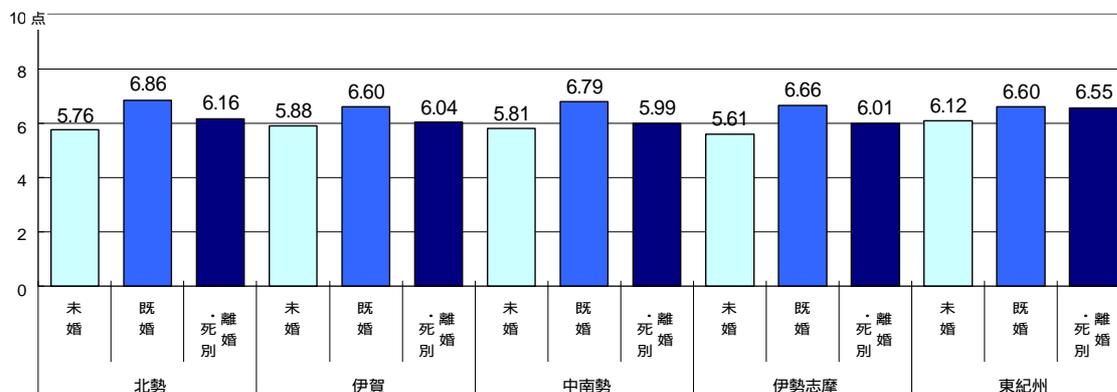
男女間の幸福感の差を見ると、既婚より未婚の方が差が大きく、特に収入が低くなるほどその差が広がる傾向が見られます

男性の世帯収入が500万円未満の層における既婚の暮らしの実感は、未婚の場合より「精神的なゆとり」や「生きがい」、「必要な収入」があり、「余暇は充実」しており、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

2(18) 結婚別×地域別

結婚別、地域別で幸福度を見たところ、東紀州地域を除く全ての地域で既婚の幸福度が最も高くなっています。

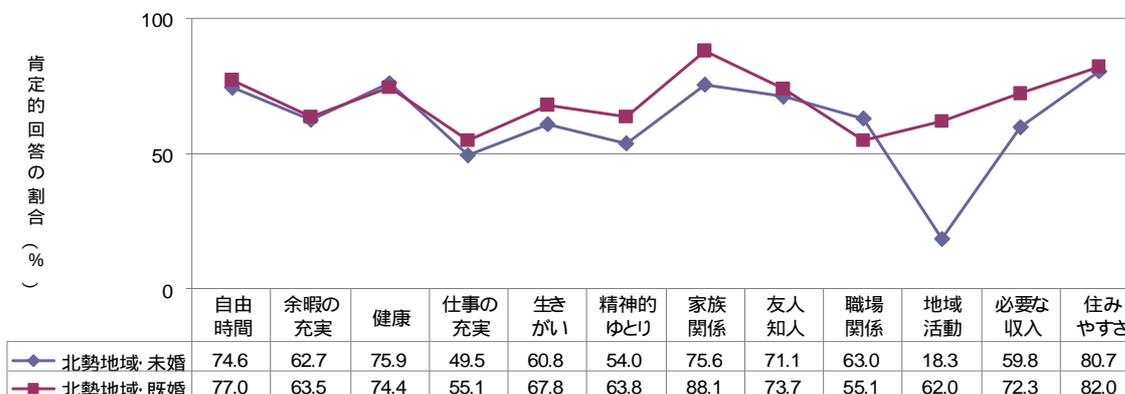
図表: 地域別 結婚別の幸福度



東紀州地域については、既婚と離婚・死別、未婚との間に統計的に有意な差は認められない。

一番サンプル数の多い北勢地域の未婚、既婚について暮らしの実感を見ると、北勢地域の既婚は未婚より、「職場での人間関係」は良好でないものの、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」があり、「家族との関係」が良好で、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

図表: 北勢地域の未婚 既婚の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

全ての地域で既婚の幸福度が最も高い傾向が見られます。

北勢地域の既婚の暮らしの実感には、北勢地域の未婚とより、「職場での人間関係」は良好でないものの、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」があり、「家族との関係」が良好で、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

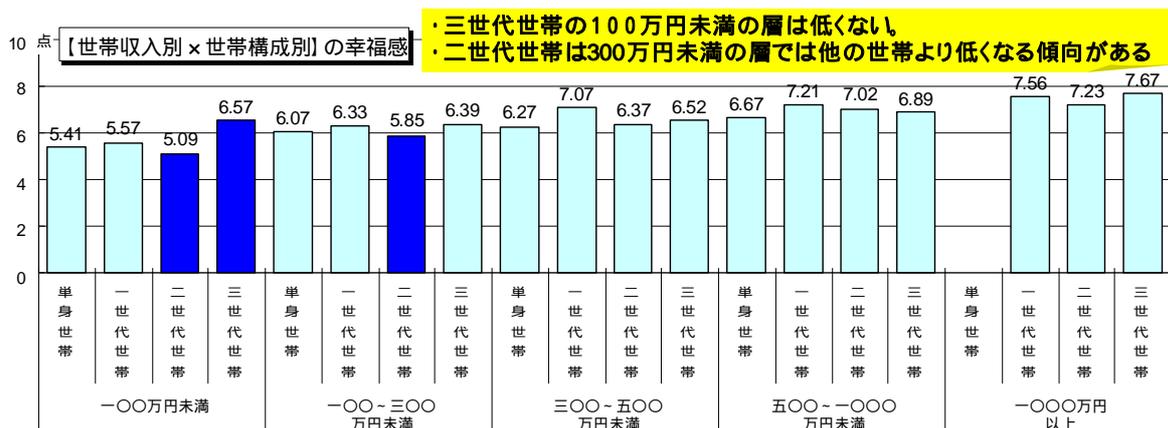
2(19) 世帯構成別×世帯収入別

第1章 15ページ関係

世帯収入が100万円未満の層における三世帯世帯(n=31)の幸福度は低くなく、全体の幸福度と同じ程度となっています。

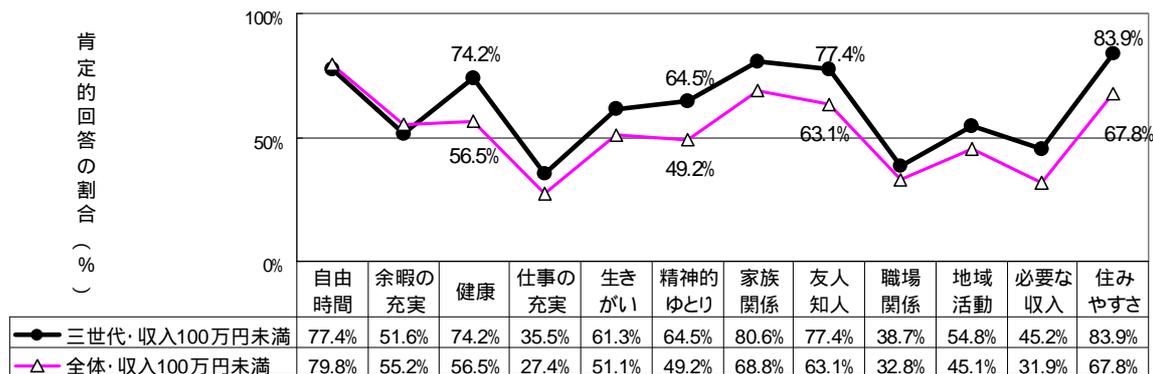
また、世帯収入が300万円未満の層における二世帯世帯では、他の世帯構成より幸福度が低くなる傾向があります。

図表：世帯別、世帯収入別の幸福度



世帯収入が100万円未満の層における三世帯世帯の暮らしの実感、同じ世帯収入の層における全世帯より「健康」であり、「精神的なゆとり」があり、「相談できる友人や知人」があり、地域は「住みやすい」などと感じています。

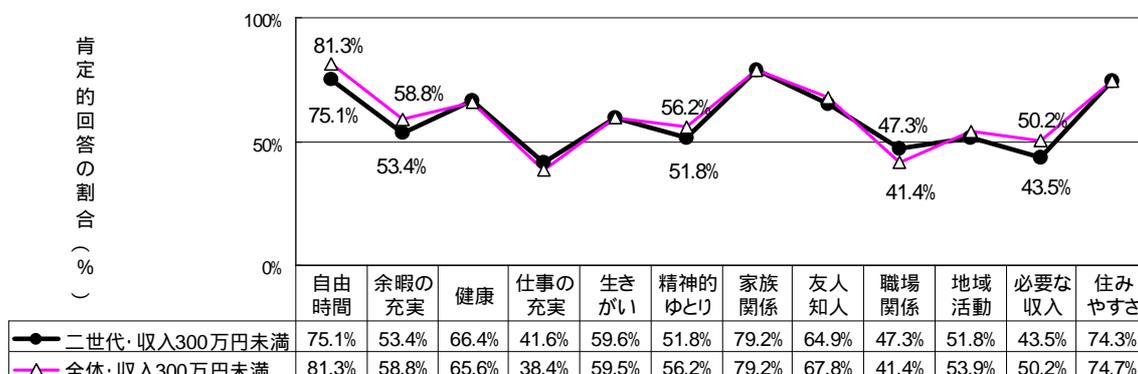
図表：世帯構成別、世帯収入別(100万円未満)におけるの暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

世帯収入が300万円未満の層における二世世代世帯の暮らしの実感は、同じ世帯収入の層における全世帯より「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「余暇は充実」していないなど感じています。

図表：世帯構成別、世帯収入別（300万円未満）におけるの暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

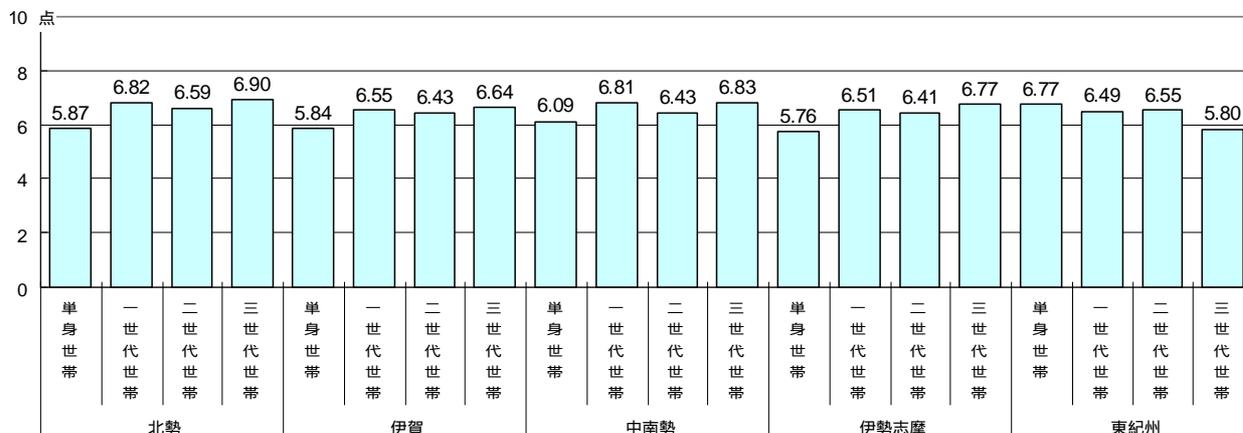
世帯収入が100万円未満の層における三世世代世帯の幸福感は低くなく、全体の幸福感と同じ程度となっており、その暮らしの実感は、同じ世帯収入の層における全世帯より「健康」であり、「精神的なゆとり」があり、「相談できる友人や知人」がおり、地域は「住みやすい」と感じています。

また、世帯収入が300万円未満の層における二世世代世帯は、他の世帯構成より幸福感が低くなる傾向があり、その暮らしの実感は、同じ世帯収入の層における全世帯より「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「余暇は充実」していないなど感じています。

2(20) 世帯構成別×地域別

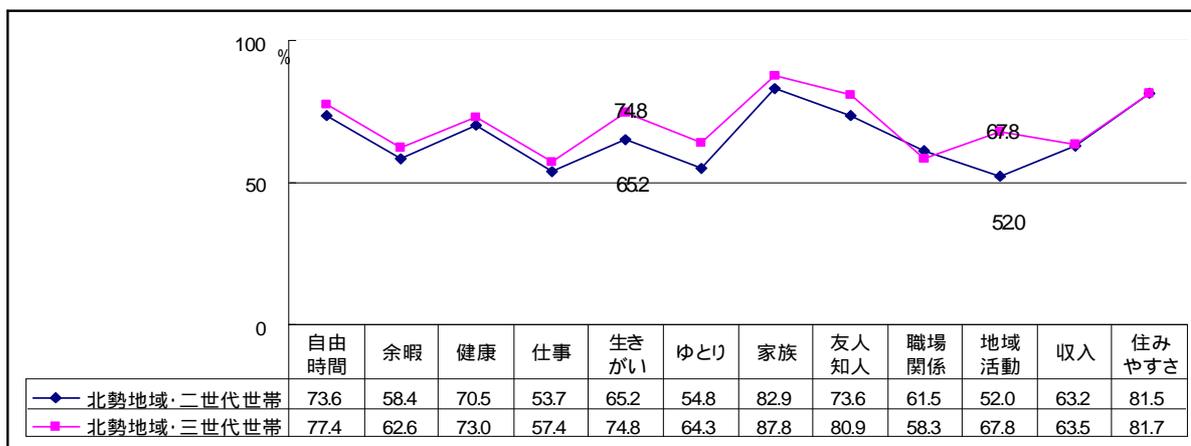
東紀州を除くすべての地域で、三世帯世帯の幸福感が最も高く、単身世帯が最も低くなっています。

図表 地域別 世帯別の幸福感



最もサンプル数の多い北勢地域の二世帯世帯と三世帯世帯について、暮らしの実感を見たところ、北勢地域の三世帯世帯は二世帯世帯と比べ、「生きがい」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

図表: 北勢地域 二世帯世帯 三世帯世帯の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

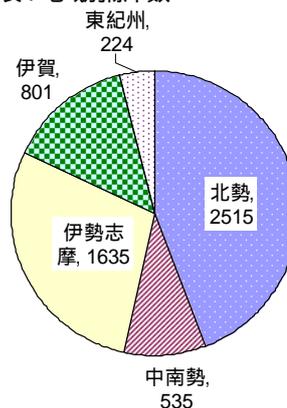
東紀州地域を除く全ての地域で三世帯世帯の幸福感が最も高く、単身世帯が低くなっています。また、北勢地域の三世帯世帯は二世帯世帯と比べ、「生きがい」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしているなどと感じています。

2(21) 世帯収入別、地域別からみた幸福度

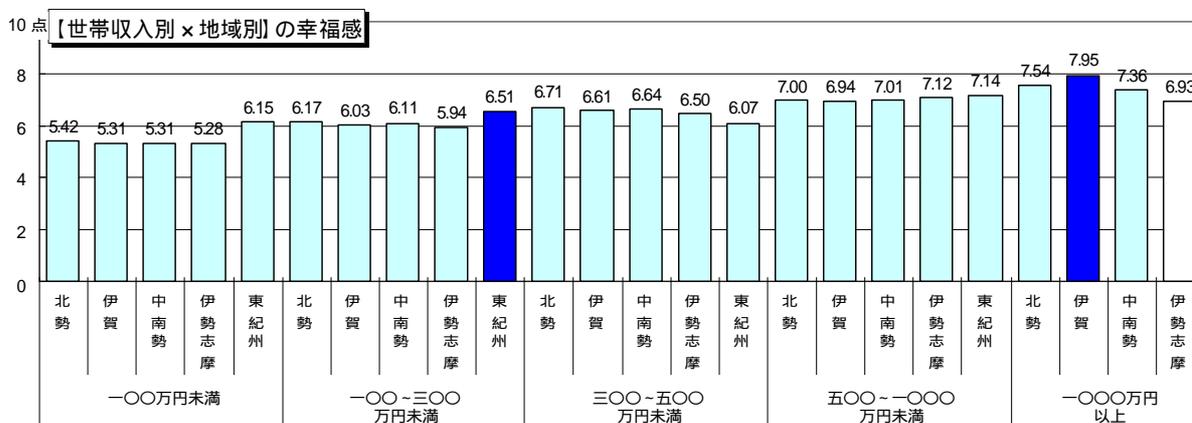
世帯収入別、地域別の幸福度を見ると、世帯収入が100～300万円未満の層では、東紀州地域の幸福度が同じ世帯収入の層における全地域の幸福度より高くなっています。

また、世帯収入が1000万円以上の層では、伊勢志摩地域における幸福度(n=44)が全地域より低い一方、伊賀地域における幸福度(n=22)は全地域より高くなっています。

図表：地域別標本数

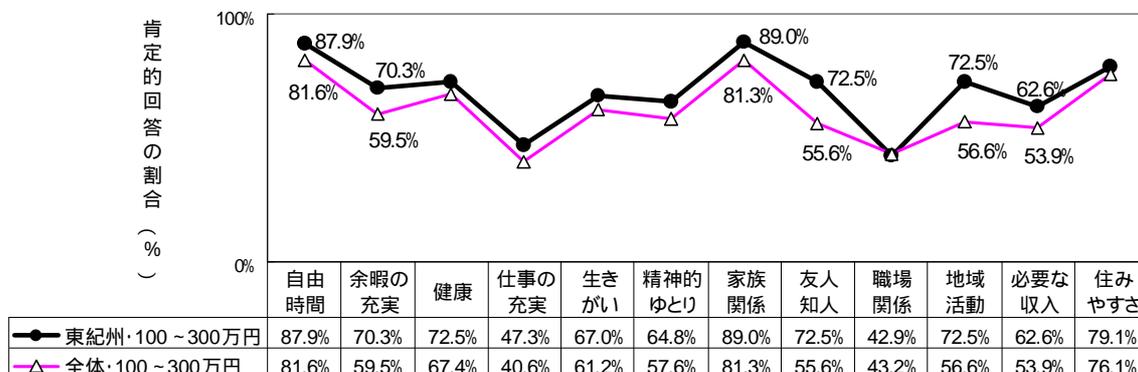


図表：地域別、世帯収入別の幸福度



世帯収入が100～300万円未満の層においては、東紀州地域の暮らしの実感、全地域より「余暇は充実」しており「相談できる友人や知人」がいて、「ご近所づきあいや地域での活動」をしているなど感じています。

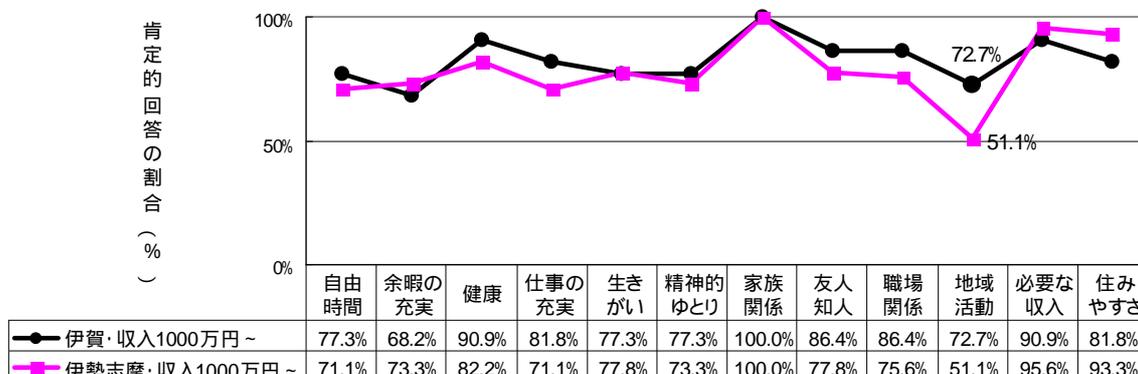
図表：世帯収入別(100～300万円未満)・地域別(東紀州地域)の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

世帯収入が1000万円以上の層においては、伊賀地域の暮らしの実感、伊勢志摩地域に比べて「ご近所づきあいや地域での活動」をしている」など感じています。

図表：世帯収入別(1000万円以上)・地域別(伊賀地域・伊勢志摩地域)の暮らしの実感



折れ線グラフの中に数字の記載があるものは、肯定的回答の割合について統計的に有意な差が認められる項目

【要点】

世帯収入が100～300万円未満の層では、東紀州地域の幸福度が同じ世帯収入の層における全地域の幸福度より高くなっており、その世帯収入の層における暮らしの実感、東紀州地域は全地域より「余暇は充実」しており「家族との関係」が良好であり、「ご近所づきあいや地域での活動」をしているなど感じています。

資料4_回答者の属性構成と県全体の構成との比較

属性	属性項目	アンケート 件数	県全体 件数	アンケート 構成比	県全体 構成比	/
地域	北勢地域	2,515	840,179	44.0	45.3	1.0
	伊賀地域	535	177,491	9.4	9.6	1.0
	中南勢地域	1,635	502,450	28.6	27.1	1.1
	伊勢志摩地域	801	255,026	14.0	13.8	1.0
	東紀州地域	224	79,578	3.9	4.3	0.9
	不明	0	0	0.0	0.0	
	計(不明除く。)	5,710	1,854,724	100	100	
性別	男性	2,675	903,398	47.7	48.7	1.0
	女性	2,931	951,326	52.3	51.3	1.0
	不明	104	0	-	-	-
	計(不明除く。)	5,606	1,854,724	100	100	
年代	20歳代	377	183,970	6.6	12.2	0.5
	30歳代	746	250,723	13.1	16.6	0.8
	40歳代	865	238,678	15.1	15.8	1.0
	50歳代	1,002	234,757	17.5	15.5	1.1
	60歳代	1,404	267,495	24.6	17.7	1.4
	70歳以上	1,219	325,277	21.3	21.5	1.0
	不明	97	12,172	1.7	0.8	2.1
		計	5,710	1,513,072	100	100
主な職業	農林水産業	213	32,926	3.7	2.3	1.6
	自営業・自由業	621	80,870	10.9	5.6	1.9
	正規職員	1,496	463,359	26.2	32.2	0.8
	パート・アルバイト・派遣	1,000	245,223	17.5	17.0	1.0
	専業主婦・主夫(家事)	776	254,687	13.6	17.7	0.8
	学生(通学)	77	16,204	1.3	1.1	1.2
	無職(完全失業者)	1,246	46,569	21.8	3.2	6.7
	その他	152	248,373	2.7	17.2	0.2
	不明	129	52,112	2.3	3.6	0.6
	計	5,710	1,440,323	100	100	
結婚	未婚	719	290,472	12.6	19.4	0.7
	既婚	4,242	977,703	74.3	65.1	1.1
	離婚・死別	607	214,579	10.6	14.3	0.7
	不明	142	18,146	2.5	1.2	2.1
	計	5,710	1,500,900	100	100	
世帯構成	単身世帯	421	189,123	7.4	10.8	0.7
	一世代世帯	1,701	304,258	29.8	17.4	1.7
	二世帯世帯	2,578	876,678	45.1	50.2	0.9
	三世帯世帯	809	344,822	14.2	19.7	0.7
	その他	81	29,797	1.4	1.7	0.8
	不明	120	1,485	2.1	0.1	24.7
	計	5,710	1,746,163	100	100	
世帯全体の年間収入	100万円未満	317	56,100	5.6	8.1	0.7
	100～300万円未満	1,551	162,300	27.2	23.3	1.2
	300～500万円未満	1,535	165,800	26.9	23.9	1.1
	500～1,000万円未満	1,483	227,400	26.0	32.7	0.8
	1,000万円以上	371	83,500	6.5	12.0	0.5
	わからない	272	0	4.8	0.0	-
	不明	181	0	3.2	0.0	-
		計	5,710	695,100	100	100
	有効回答数	5,710		100		

「主な職業」の県全体数は15歳以上人口 ただし、「農林水産業」、「専業主婦・主夫」、「無職」、「学生」、「その他」、「不明」は20歳以上人口

「主な職業」の県全体数の「無職」は「完全失業者」数

「結婚」の県全体数は20歳以上人口

" 「世帯構成」の 県全体数は20歳以上の人口で そのうち 「三世帯世帯」には三世帯以上の世帯も含む

" 1.5以上若しくは0.5以下のセルに着色